

第19回日本オオサンショウウオの会 広島大会報告書

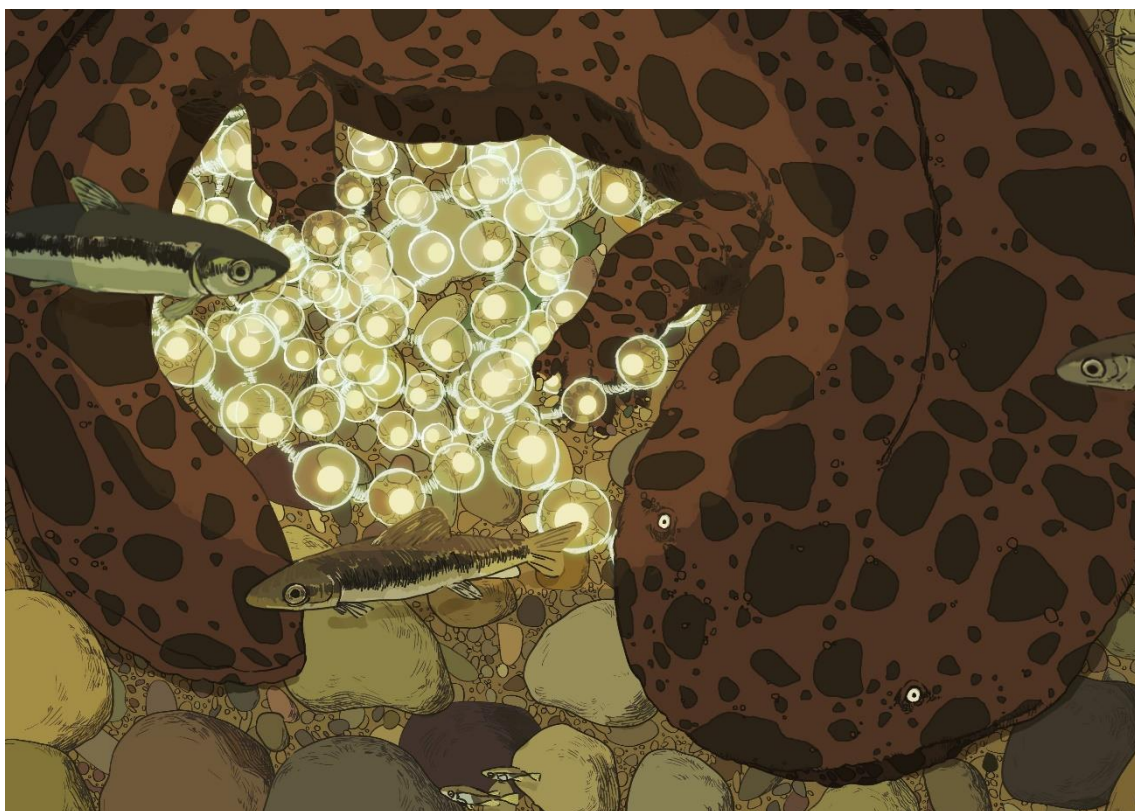


イラスト 平野日加利氏（北広島町出身 沖縄県立芸術大学1年）

2024年10月19日（土）～20日（日）
広島県北広島町

日本オオサンショウウオの会

目 次

1 日本オオサンショウウオの会総会資料（2024 年度）	1
2 大会概要.....	4
3 報告一覧及び要旨	7
4 その他の行事.....	41
5 アンケート結果.....	42

主催：第 19 回日本オオサンショウウオの会広島大会実行委員会
共催：日本オオサンショウウオの会

1 日本オオサンショウウオの会総会資料（2024 年度）

1. 会長挨拶

2. 議 事

（1）会員登録状況（2024 年 8 月 31 日現在）

個人会員 222 人（増 38，入会 39，退会 1），団体会員 24 団体（増 1），特別会員 1 件（文化庁）

（2）2023 年度事業報告~~（案）~~

①2023 年度日本オオサンショウウオの会総会

②第 19 回日本オオサンショウウオの会広島大会の準備

③第 20 回日本オオサンショウウオの会名張大会の準備

④第 21 回大会開催地の調整（神奈川県相模原市）

⑤「オオサンショウウオ個体登録マニュアル」の推進

⑥「オオサンショウウオ遡上路」調査

⑦オオサンショウウオ保全のあり方に関する検討

⑧日本オオサンショウウオの会 20 周年記念誌制作の検討

⑨ホームページ，会員メーリングリスト，SNS（Facebook，Instagram，X）の整備運用

⑩事務局会議の開催

⑪その他，会務に必要な事業

（3）2023 年度会計報告~~（案）~~・会計監査報告（次頁）

（4）2024 年度事業計画~~（案）~~

①2024 年度日本オオサンショウウオの会総会（書面）

②第 19 回日本オオサンショウウオの会広島大会の開催

③第 20 回日本オオサンショウウオの会名張大会の準備

④第 21 回大会開催地の調整（相模原市での開催に決定）

⑤「オオサンショウウオ個体登録マニュアル」の推進

⑥「オオサンショウウオ遡上路」調査集の発行

⑦オオサンショウウオ保全のあり方に関する検討

⑧日本オオサンショウウオの会 20 周年記念誌の編纂

⑨ホームページ，会員メーリングリスト，
SNS（Facebook，Instagram，X）の運営

⑩事務局会議の開催

⑪英名の作成

⑫その他，会務に必要な事業

（5）2024 年度予算~~（案）~~（次頁）

（6）役員等改選（右かこみの人員 *新規）

（7）事務局の移動 広島市安佐動物公園 → オオサンショウウオ生態保全教育文化研究所

（8）次期大会開催地選出

①第 20 回大会（2025 年度）開催地：三重県名張市

②第 21 回大会（2026 年度）開催地：神奈川県相模原市

③第 22 回大会（2027 年度）開催地：岐阜県郡上市

2024 年度日本オオサンショウウオの会
役員，監事及び顧問

会 長：清水善吉

副 会 長：岡田 純（保全・研究）

事務局長：田口勇輝（庶務）

事務局員：桑原一司（保全・研究）

清水則雄（保全・研究）

松田裕太（保全・研究）*

谷口真理（普及啓発）

手塚海香（普及啓発）*

浜中京介（普及啓発）

山崎寛子（普及啓発）

岩田貴之（庶務・会計）*

中原 愛（庶務）*

監 事：佐野 元

松井久実

顧 問：松井正文

日本オオサンショウウオの会 2023 年度会計報告(案)

(2023 年 9 月 1 日～2024 年 8 月 31 日)

収 入

項 目	金 額
会費※	345,000
※個人 215 口(1,000×215=215,000) ※団体 26 口(5,000×26=130,000)	
預金利息等	12
前年度繰越金	1,473,932
合 計	1,818,944
次年度繰越金	1,553,644

支 出

項 目	金 額
2023 大会補助金	50,000
印刷代	117,700
通信費	56,370
旅費	3,480
振込手数料	640
HP・Zoom 契約料*	34,175
事務消耗品費	2,935
合 計	265,300

上記の会計報告について監査した結果、相違ないことを報告します。

2024 年 10 月 13 日

日本オオサンショウウオの会

会計監査

佐野



会計監査

松井



2024 年度予算(案)

(2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日)

収 入

項 目	金 額
会費	273,000
前年度繰越金	1,553,644
合 計	1,826,644

支 出

項 目	金 額
大会補助金	50,000
印刷代(大会報告書、遡上路事例集)	398,010
通信費	80,000
旅費	50,000
HP・Zoom 契約料	34,175
事務消耗品費	30,000
振込手数料	1,000
予備費	1,203,459
合 計	1,826,644

本議案は総会にて満場異議なく承認された

日本オオサンショウウオの会総会（2024 年度）補足資料

当会の活動についての補足説明資料です。下記の内容をご確認いただき、積極的に活動に参加していただけると幸いです。

①事務局の移動

当会事務局は、広島市安佐動物公園からオオサンショウウオ生態保全教育文化研究所へ変わりました。新たな事務局の連絡先は、以下のとおりです。

住所：〒731-3361 広島県広島市安佐北区あさひが丘 2-14-31

TEL：090-7751-8344（事務局長 田口） E-mail：nihonoosanshouuonokai@gmail.com

②メーリングリスト

当会の活動や、各会員の活動を周知して情報共有をするためメーリングリストを運用しています。個人会員や団体会員（1 団体で 5 人）は登録可能なので、ご希望の方は上記事務局までご連絡ください。

③オオサンショウウオ個別登録マニュアル <https://x.gd/N4R23>

当マニュアルは、オオサンショウウオ調査における基本的な取り扱い、とくにマイクロチップによる個別登録について解説しています。



④全国オオサンショウウオ遡上路調査の実施と報告書作成

本種の生息地で移動の阻害を改善するために井堰等に設置されている、遡上路や階段等についてとりまとめた報告書の作成をすすめています（2025 年夏頃発行予定）。

⑤各種 SNS

Instagram： <https://www.instagram.com/giantsalamanderofficial/>

Facebook： https://www.facebook.com/profile.php?id=61558496256790&_rdr

X： <https://x.com/JGsalamander>



2 大会概要

2.1 主催、共催及び後援

主催：第 19 回日本オオサンショウウオの会広島大会
実行委員会

共催：日本オオサンショウウオの会

後援：広島県教育委員会・
広島市・広島市教育委員会・北広島町・北広島町
教育委員会

第 19 回日本オオサンショウウオの会広島大会実行委員会

役 職	氏 名	所 属 ・ 職 名
会 長	桑原 一司	日本オオサンショウウオの会 事務局員
副会長	清水 則雄	広島大学総合博物館 准教授
委 員	朝枝真夕美	幼保連携型認定こども園ふたば 園長
	梅田 司	三ちゃんS村 村長
	佐藤 亮太	特定非営利活動法人湯来観光地域づくり公社 理事長
	田口 勇輝	日本オオサンショウウオの会 事務局員
	平野 正	広島県新庄学園広島新庄中学・高等学校 統括教頭
	本宮 炎	特定非営利活動法人三段峡一太田川流域研究会 理事長
	三宅 将己	東広島オオサンショウウオの会 会長
事務局長	阿部 勝彦	広島市安佐動物公園 園長
事務局	大見慎太郎	広島市安佐動物公園 副園長
	南方 延宣	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
	鎌田 博	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
	野々上範之	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
	安西 航	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
	原 廣史朗	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
	清水 小波	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
	橘高みづき	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
監 事	服部 佑紀	広島市安佐動物公園オオサンショウウオチーム
	木村 一英	広島市市民局文化スポーツ部文化振興課 主幹
	原田 靖久	北広島町教育委員会教育課 専門員

2.2 開催日程及び会場

期日：2024 年 10 月 19 日（土）
～20 日（日）

会場：交流センター 紫の里
（千代田開発センター）
広島県山県郡北広島町
有田 1234-1

日程：2 日間のプログラムは次
頁（5 ページ）のとおり

2.3 協賛

以下の皆様にご協賛賜りましたことに感謝申し上げます。

株式会社にしき堂、シバタ工業株式会社、有限会社ニシオカ、ランデス株式会社、復建調査設計株式会社、有限会社富広材木店、みどり山とオオサンショウウオの里 三ちゃんS村、株式会社典礼社、株式会社平田組、安佐運送株式会社、広島県生活協同組合連合会、吉村眞実子、株式会社広島ホームテレビ、株式会社中国新聞社編集局、株式会社イイマド、中筋東野商店街、有限会社栗栖建設、有限会社おばた設備、吉田建設株式会社、ホウジョウ設備 代表北條典幸、flavor café Rikka、オオサンショウウオ生態保全教育文化研究所、有限会社藤浦建設、佐々木木材、株式会社広島銀行安支店（敬称略）

2.4 参加者及び発表者数

2 日間で 374 名（内、広島県民 207 名）の参加があった。また、各地からの報告は、2 日間で開催地からの報告 2 題を含めて 23 題の口頭による発表と、5 題のポスターによる発表の合計 28 題あった。さらに環境省による基調講演も行われた。

2024 年 10 月 19 日（土曜）日本オオサンショウウオの会 広島大会 日程

時 間	内 容	参照 ページ
11:00～	受付・物販開始	6
12:00～13:00	日本オオサンショウウオの会 総会	1-3
13:00～13:20	開会宣言，開会挨拶，来賓挨拶	
13:20～14:00	【基調講演】 『チュウゴクオオサンショウウオ等の特定外来生物指定について』 田口知宏氏（環境省）	40
14:00～14:10	オープニングイベント 『さんちゃんのうた』 『サンちゃん音頭』 こども園ふたば	41
14:10～14:50	開催地からの報告	10-13
15:00～17:20	各地からの報告	14-34
18:00～20:00	情報交換会 酔膳亭みちづれ	41
20:00	解散	

2024 年 10 月 20 日（日曜）日本オオサンショウウオの会 広島大会 日程

時 間	内 容	参照 ページ
8:30～9:00	受付・ポスター解説	35-39
9:10～11:30	各地からの報告	14-34
11:30～11:40	次回開催宣言，閉会挨拶	
11:40～12:40	昼食	
13:30～15:00	オオサンショウウオ生息地見学（北広島町志路原上石地区）	41
16:00～17:00	広島市安佐動物園 オオサンショウウオ保護増殖施設見学	42
17:00～	解散	



▲今大会のメイン会場となった北広島町「交流センター 紫の里」の様子

2.5 物販等の出店一覧

16 の個人・団体からの物販等の出店がされ、オオサンショウウオに関するオリジナルグッズ等が販売・紹介された。

	出店者名	物販内容	10/19	10/20
1	おやつの鯨鯢	焼き菓子，オリジナルグッズ	○	○
2	T's Favorite	シルバーアクセサリ，レジン製のオオサンショウウオ等	○	○
3	333coffee	オリジナルオオサンショウウオグッズ	○	○
4	Kanon Tanaka の生き物グッズ！_京都大学	クリアファイルや名刺入れなどのオリジナルグッズ，ぬいぐるみやストラップなど	○	○
5	西中国山地自然史研究会	書籍：北広島町の自然（調査報告書） 高原の自然史（学術雑誌） いきものバッジ，てぬぐい	○	×
6	びわこベース	書籍，缶バッジ，ぬいぐるみ，ポスターなど	○	×
7	山本 紗英子	T シャツ，トートバック，雑貨	○	×
8	NPO 法人日本ハンザキ研究所	ハンザキTシャツ，タオル，文具等	○	○
9	麻布大学	ステッカーなどの雑貨	○	×
10	余島 睦美	プリントTシャツ	○	○
11	NOTARI	タオル，缶バッジ，キーホルダー，マグカップ等	○	○
12	三段峡ー太田川流域研究会	ぬいぐるみ等	○	○
13	内藤順一	書籍：太田川水族館，ヒバゴンと間違えられた男	○	○
14	三澤工作所	オオサンショウウオ模型等グッズ	○	○
15	藤利食品有限会社	オオサンショウウオこんにやく他 珍味こんにやく各種	○	×
16	asazoo	オオサンショウウオグッズ等	○	○



▲たくさんのオオサンショウウオのオリジナルグッズが販売されておりました

3 報告一覧及び要旨

【開催地からの報告（口頭発表）】

- ① みんなの友だち，さんちゃん〜地域の宝を守るために〜・・・・・・・・・・10
梅田司（三ちゃんS村）・朝枝真夕美（ふたば児童クラブ）
- ② 北広島町志路原での調査から見えるオオサンショウウオの長期的な移動生態・・・・・・・・13
野々上範之・安西航・阿部勝彦（広島市安佐動物園）



▲基調講演（環境省 田口知宏氏）



▲開催地からの報告

【各地からの報告（口頭発表）】

- O-1 オオサンショウウオの孵化幼生の離散のタイミング・・・・・・・・・・14
河邊直洋・脊戸光己（広島新庄中学・高等学校 中学3年オオサンショウウオ探求チーム）
- O-2 山口県周南市に県内3つ目の繁殖個体群，発見か？・・・・・・・・・・15
大野瑞希ほか（学校法人山口高川学園 高川中学校）
- O-3 オオサンショウウオ骨格標本制作・・・・・・・・・・16
林 蒼一郎（愛知高等学校1年）
- O-4 東広島市におけるオオサンショウウオの保護活動 ～広島県立賀茂北高等学校科学研究部の
取り組み～・・・・・・・・・・17
大友唯楓ほか（広島県立賀茂北高等学校）ほか
- O-5 オオさん福祉から始まる保全教育～シェアピ式と育伝式～・・・・・・・・・・18
つまき♪
- O-6 鳥取県南部町における広島県産オオサンショウウオ 飼育展示個体の3年間の報告と普及啓発
効果について・・・・・・・・・・19
桐原真希（複合施設キナルなんぶ「なんぶふれあい館」）

O-7 同じ地点を何度も調査した結果・・・・・・・・・・・・・・・・	20
川内彬宏（環境省環境カウンセラー・名張市教育委員会）	
O-8 島根県美郷町のオオサンショウウオ調査、再開しました！・・・・・・	21
松井久実（麻布大学 大学教育推進機構／獣医学部）	
O-9 環境DNAを用いた江の川土師ダム下流におけるオオサンショウウオ生息適地の検討・・・・	22
宮園誠二・宮平秀明・中尾遼平・赤松良久（山口大学大学院創成科学研究科）	
O-10 鳥取県におけるオオサンショウウオの生息状況の推移・・・・・・・・・・	23
坂本光織（広島大学大学院人間社会科学研究科）・高原輝彦（島根大学生物資源学部）	
O-11 オオサンショウウオ属における骨組織学的手法を用いた年齢推定・・・・・・・・・・	24
石川世奈（京大・人間・環境）・西川完途（京大・地環）	
O-12 ブナが育んだ宇佐川の宝ものオオサンショウウオ・・・・・・・・・・	25
榎本龍生（岩国市立宇佐川小学校6年）・村田 満（学校法人山口高川学園）	
O-13 三段峡におけるオオサンショウウオの食性調査 ―本種は漁業者の害獣なのか―・・・・	26
本宮芳太郎ほか（特定非営利活動法人三段峡―太田川流域研究会）	
O-14 鳥取県日野川上流域の支流におけるオオサンショウウオの生息状況と生息環境・・・・	27
岡田純・岡田龍河（日本ハンザキ研究所・多里はんざけを守る会）	
O-15 岩国市宇佐川におけるオオサンショウウオの保護について・・・・・・・・・・	28
富岡由美子・原田さなみ（岩国市文化財課）・森田敏弘（復建調査設計株式会社）	
O-16 街中で繁殖するオオサンショウウオ―地元住民との市民科学によるヌシの行動観察―・・・・	29
田口勇輝ほか（オオサンショウウオ生態保全教育文化研究所）	
O-17 島根県の野生下におけるオオサンショウウオ人工巣穴産卵の初記録・・・・・・・・・・	
※O-17 は発表キャンセルのため要旨なし 岩田貴之（SAN-IN やすぎオオサンショウウオの会）	
O-18 瀬戸市蛇ヶ洞川における在来個体保全・交雑個体防除の取組み・・・・・・・・・・	30
佐野 元（瀬戸市文化財課）	
O-19 広島市八幡川交雑種除去戦略としての産卵巣穴調査・・・・・・・・・・	31
桑原一司ほか（広大プロジェクトセンター）	
O-20 オオサンショウウオの種間交雑に関する深刻な課題 ～広島県の現状について～・・・・	32
清水則雄（広島大学総合博物館）ほか	
O-21 岐阜県の現状 2024・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
大垣北高校自然科学部オオサンショウウオ班	
O-22 特定外来生物指定と日本オオサンショウウオの会・・・・・・・・・・	34
清水善吉・岡田純・田口勇輝・桑原一司（日本オオサンショウウオの会）	

【各地からの報告（ポスター発表）】

- P-1 京都大学子ども博物館 オオサンショウウオワークショップ・・・・・・・・・・35
田中花音・西川完途（京都大学地球環境学堂）
- P-2 川上ダムにおけるオオサンショウウオ保全の取り組み・・・・・・・・・・36
松本彩菜（(独)水資源機構 木津川ダム総合管理所）
- P-3 激やせ個体2頭と夏のオオサンショウウオ観察会・・・・・・・・・・37
松山鴻志ほか（学校法人山口高川学園 高川中学校）
- P-4 AGE s を用いたオオサンショウウオの年齢推定にチャレンジ・・・・・・・・38
片岡柚奈・松井久実（麻布大学獣医学部）
- P-5 岡山県高梁川のオオサンショウウオ・・・・・・・・・・39
城代玲志・亀崎直樹（岡山理科大学大学院理工学研究科）



▲各地からの報告の様子

みんなの友だち、さんちゃん～ 地域の宝を守るために～

梅田 司（三ちゃんS村 村長）・朝枝真夕美（ふたば児童クラブ 代表）

1 概要

2004 年（平成 16 年）にオオサンショウウオの保護活動に取り組んでいたグループが「三ちゃんS村」として発足した。「三ちゃんS村」という名前には、「三つのチャンスを生かす村」という意味が込められている。三つのチャンスとは、

1. 人を知り、人と人のふれあいを持つことのできるチャンス
2. 郷土の良さや自然を知るチャンス
3. 人と自然環境を生かし、活力ある郷土を創造するチャンス

の三つを言い、「さん」は、オオサンショウウオの「さん」と山川の「さん」と太陽が燦燦と輝く「さん」を意味している。活動としては、

- ・河川環境やオオサンショウウオの保護活動
- ・国際交流や都市の人とふれあうことのできるイベントの開催
- ・古里を取り巻く山々のハイキングコース作り

などを考え、元気な地域づくりをめざしてスタートした。

2004 年 5 月には、双葉保育園が主催して行っていた「サンちゃんと友だちになる会」を三ちゃんS村として初めて主催し「第4回サンちゃんと友だちになる会」を開催し、続いて2006年11月には「第1回里山の紅葉まつり」を開催した。以来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う中止になるまで毎年のように、認定こども園ふたばと協力しながら継続してきた。



1980 年（昭和 55 年）に始まった松歳川の改修時に作られた人工巣穴と観察小屋の老朽化が進み、2009 年（平成 21 年）に改修が行われ、現在の人工巣穴の観察小屋が完成した。その後毎年のように、安佐動物公園や新庄中学校の生徒さんやふたば児童クラブさんたちと共に掃除を行ってきた。この人工巣穴では、今年も産卵を確認することができた。

このように 20 年余りにわたって活動を続けてきたが、現在多くの課題を抱えている。まず、大きな課題は、設立当時に関わった方々の高齢化と人口減少が進み、設立当時の意義を理解した上での活動が難しくなっていることが挙げられる。もう一つは、世界的に進む地球温暖化に伴う集中豪雨によるオオサンショウウオの減少がある。そんな中ふたば児童クラブでは毎年川の生き物調査を行っている。



三ちゃんS村と認定こども園ふたば、ふたば児童クラブでは、これらの課題を踏まえつつ、オオサンショウウオの保護と地域の活性化、子どもたちの健やかな成長につながる取り組みができるよう、地域の方々の協力を仰ぎながら地道に続けていきたいと考えている。

2 三ちゃんS村の取り組み

(1) サンちゃんと友だちになる会

2004年5月、双葉保育園が主催して行っていた「サンちゃんと友だちになる会」を三ちゃんS村として初めて主催して行い、大きな成果を上げることができた。この会には、地元の子どもたちを中心にしながら、多くの園児児童が参加し、実際に大口川や志路原川に入って魚や小動物、昆虫を採集し、採集したものを安佐動物公園の専門家の方々から詳しい説明を聞き、学習を深めることを行った。この学習により、オオサンショウウオの生息する環境の多様性のすばらしさを感じるとともに、実際に体験活動を行うことで、一人一人の子どもたちの豊かな感性の育成にもつながっていった。



この会は、新型コロナの感染による中断はあったが、再開し、今年は8月10日に開催し、多くの子どもたちが参加し、例年のようにたくさんの生物を観察し、大口川や志路原川の豊かさを実感することができた。

(2) 人工巣穴の清掃活動

大口川と松歳川に設置されている人工巣穴では、毎年何か所かで産卵行動を観察することができ、オオサンショウウオの保護活動に大きく貢献することができている。その産卵活動を継続させるためにも、人工巣穴の環境を整える必要がある。そのために、産卵行動が始まる前の7月下旬から8月上旬に毎年、人工巣穴の清掃活動を行っている。安佐動物公園と三ちゃんS村が協力しながら行ってきた活動であったが、現在では新庄中学校の生徒の方々も学習の一環で加わり、力を合わせ行うことができています。今年、8月1日に行い、この時の活動できれいにした人工巣穴の2か所で今年も産卵を確認することができた。実際に産卵が確認されることは、様々な活動を行ってきた生徒さんや村民にとっても大きな喜びとなっている。



近年の異常気象の影響を受けて、集中豪雨による出水がたびたび見られ、人工巣穴の中に多くの土砂が流入している場合もあり、産卵行動を促すためにも、この人工巣穴の清掃活動を継続していかなければならないと考えている。

(3) 里山の紅葉まつり

2006年11月5日、「第1回 里山の紅葉まつり」が開催された。主催は三ちゃんS村で、志路原部落会、上石部落会、こども園ふたば、児童クラブなどが共催し、地域を挙げての行事となり、大きな盛り上がりを見せた。内容は「お楽しみ工作教室」「とんとん楽しい大工さん教室」「新鮮野菜即売会」などに加え、ステージ発表では、園児さんの歌やお遊戯に始まり、神楽や舞踊などで多くの方々が楽しむ姿を見ることができた。また、「秋の大ごっつおう会」と称し、各組からバザーが出店し、会場をにぎわすことができた。



しかし、2020年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響で、様々な行事が中止になる中、「里山の紅葉まつり」も例外ではなく、やむを得ず中止になった。それ以後、今年も様々な事情により、開催することはできていない。今後どのように取り組みを進めていくか、大きな課題である。

3 こども園ふたば・ふたば児童クラブ

ふたば児童クラブは幼保連携型認定こども園ふたばに併設されている放課後児童クラブである。今年度は小学1年生～6年生23名が在籍しており、就学前はこども園ふたばに通い卒業している子で構成されている。就学前からオオサンショウウオの棲んでいる川へ夏になったら遊びに行き、川の歩き方を学びながら川遊びを楽しむ中でオオサンショウウオを「さんちゃん」と愛称で呼び親しんでいる。

夏休みになると毎日のように川に入り川遊びや生き物採集を楽しんでいる。その中でも2012年より毎年行っているのが「川の生き物探し」という行事だ。講師に桑原先生を迎え生き物の採取の方法や生き物の生態、オオサンショウウオの棲んでいる川の環境について学ぶ機会を作っている。

川の生き物探しを始めた頃は網を岸に近い場所へ置き川上から川下へ魚を網の中へ追いやり網を素早く引き上げたり、川底近い所に網を構えてその上を魚や生き物が通過するのをただ静かに待ったりするだけだったが、経験を重ねることで網1本をしかけるだけでなく2人以上の人を集めて数本の網を隙間なく並べ、川上から川下へ大きな音を立てて魚を網の中へ追いやるようなチームプレイができるようになる。

網に入った魚や生き物を最初は水面から網を上げてバケツに運んでいた子どもも高学年から移動の仕方を教わると網を水面から出さないようにしながらバケツまで運ぶことができるようになる。その反面「なんか虫捕まえたけー捕って」「カエルじゃけーさわれん！バケツに入れて」と網を使って採取はできるが、生き物を直接触ることができない子どもも多い。

小学1年生の頃は採集した生き物はすべて「魚」と言っていた名前も学年が上がるにつれ、「カワムツ」「ドンコ」「オヤニラミ」と名前を知り特性を知ることができるようになった。

魚に興味がない子や捕まえることができない子はカワニナをひたすら採取し、何匹いるか数える姿もある。また、「去年はおったのに今年はこの魚が採れてない」など生き物探しの経験年数が増えるに連れ、子どもたちの中でも「さんちゃんが棲む川」の大切さが芽生えてきていると感じる言葉が活動中に何度も聞かれる。そして、生き物採取中に子どもたちが一番喜ぶことは幼生や5年生きたオオサンショウウオに実際に出会える時だ。長さや重さを測る方法を見せてもらい大満足する子どもたちの姿。貴重な出会いでありオオサンショウウオの生態について学ぶこともあった。

このように毎年の「川の生き物探し」を経験し生き物を捕まえると生き物同士のつながりを学ぶことができ、関連を知ることができる。小学1年生から積み重ねの経験をすることで川へ遊びに行きゴミを見つけると「さんちゃんがおる川なのに棲めなくなるけ、持って帰ろう川に捨てたらダメよ」と考えられるようになった。子どもたちにとっては夏になるとできる楽しい「川遊び」ではあるが、心の中には「自然を大切に・生き物を大切に」という環境を思いやる心や高学年が低学年に経験したことを伝えていく心が育ってきている。

これからもふたば児童クラブではこの「川の生き物探し」という活動を桑原先生や安佐動物公園、三ちゃんS村、地域の方の協力を得ながら続けていきたいと考えている。



北広島町志路原での調査から見える オオサンショウウオの長期的な移動生態

○野々上範之・安西 航・阿部勝彦（広島市安佐動物公園）

広島市安佐動物公園は1973年から50年以上、北広島町志路原でオオサンショウウオ（*Andrias japonicus*）の調査を続けてきた。調査地は志路原川から支流大口川・松歳川が分岐する約1km四方の地域で、夜間に川を踏破し、標識・再捕獲を行ってきた。2003年からは個体識別にマイクロチップを使用し、2016年からはGPSロガーを用いて位置情報を記録している。数年単位で調査テーマを変えて調査を行っていたため、調査した河川、季節は年によって異なる。

2003年以降2023年までの調査で、203個体を識別し、のべ578回の捕獲を行った。このうち45個体については、PCR法による性別判定も実施した。これらの結果から見えてきた、この地区におけるオオサンショウウオの長期的な移動生態について報告する。

各個体の捕獲記録を年毎に集計した結果、21年間の調査で、毎年最低1個体は新規の個体が捕獲されていることがわかった。最初に捕獲された年から最後に捕獲された年の間隔を見ると、この区域を5年以上利用している個体が42個体、そのうち16個体は10年以上利用していた。15年以上にわたって発見されている個体も5個体おり、最も長く利用していた期間は、2005年に捕獲され2023年にも捕獲された個体の18年間であった。連続して捕獲される年数は最長で8年間、再捕獲までの間隔が一番長い個体の捕獲間隔は13年間であった。

また、5年以上この地域を利用していた個体について地図上で捕獲地点を分析した結果、夏季に本流から支流へ移動する典型的な繁殖遡上を行う繁殖移動型（図1）が10個体認められた。季節に関わらず一定の区域を利用する定住型が10個体、発見位置がだんだん下流に移動していく下降型は2個体認められた。以上の結果から、本種が1km四方という狭い区域での長期的な定住性を持つことがわかったが、より広い範囲での移動を数年単位で行っている可能性も示唆された。

5年以上この地域を利用した42個体のうち、性別判定できた個体は8個体であった。繁殖移動型の10個体のうち性別が雄だったのは3個体、残りは性別不明で、雌と判定された個体はいなかった。逆に、定住型の10個体のうち3個体が雌で、残りは性別不明、雄と判定された個体はいなかった。下降型の2個体のうち1個体は雄であった。その他の性別判定できた個体は、どの型にも分類されなかった。

2003年から2022年までのデータを用いて、性別判定済みで複数回捕獲された26個体（雌11個体、雄15個体）の捕獲された地点の最長距離を地図上で計測し、雌雄比較したところ、雄の方が雌より有意に移動範囲が広いこともわかった（ $p < 0.01$ ）。

以上の結果から、季節性の繁殖移動を行っているのは雄であり、雌は季節によらず一定の範囲で生息する傾向が示唆された。しかし、調査を行った河川、季節が一定ではなかったことから実証することは難しかった。また、PCRによる性別判定は近年行えるようになった方法であり、性別がわかり長期的に動きを追えた個体は限られていた。

北広島町志路原で、長期にわたって調査を継続できたのは、地域の方の理解、支援をいただけているためである。今後もこの関係性を続け、データが少ない河川・季節ができないよう長期的な研究計画を設定することで、オオサンショウウオのより詳しい移動生態を明らかにすることができるだろう。

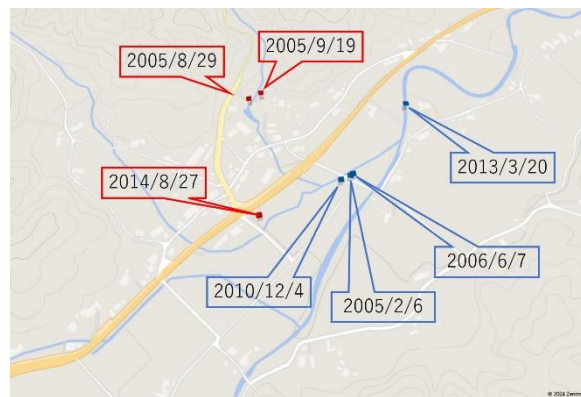


図1. 繁殖期移動型の個体の捕獲日と位置

オオサンショウウオ孵化幼生の離散のタイミング

河邊直洋・脊戸光己（広島新庄中学・高等学校 中学3年オオサンショウウオ探究チーム）

1 はじめに

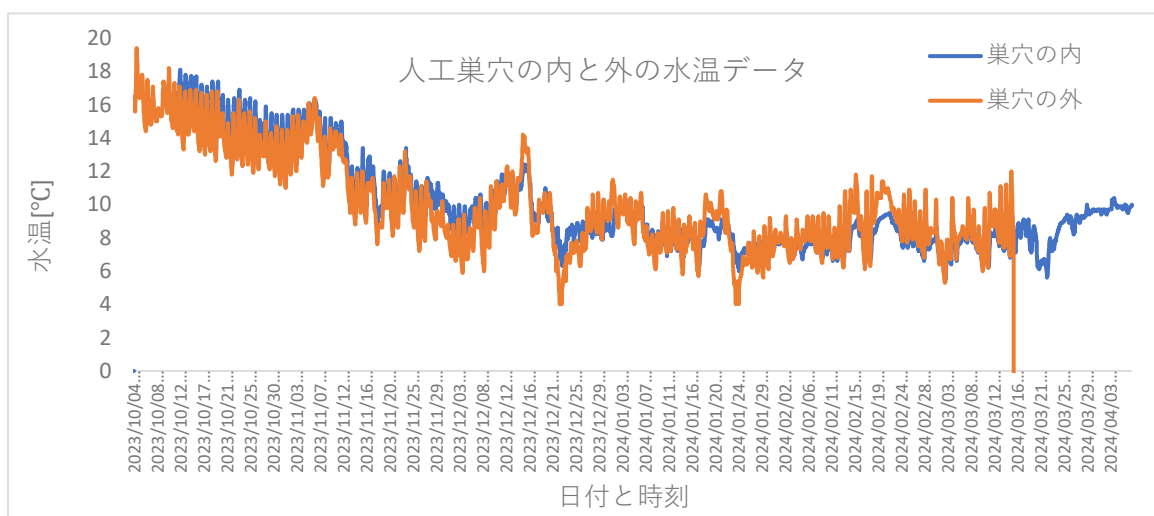
本校は、14年前から新庄自然科学プログラムとして、中学生全員が地元の自然を教材に生物多様性の保全を目的とした探究学習を行っている。学年ごとのテーマは、中学1年生で「大朝のテングシデ」、中学2年生で「オオサンショウウオ」、中学3年生で「八幡湿原」である。

私たちは、この中でオオサンショウウオの生態に興味を持ち、先輩たちの研究テーマの1つである「オオサンショウウオ孵化幼生の離散について」を引き継いだ。本研究では、2023年度の北広島町志路原地区の人工巣穴での観察結果をもとに幼生の離散について考察する。

2 研究方法

安佐動物公園が人工巣穴内に設置した赤外線カメラによる録画データの解析、直接目視による幼生の確認、人工巣穴内と外（川）のデータロガーによる水温の記録から仮説をたて、離散のタイミングと水温の関係について考察する。

3 結果



4 考察（仮説）

内水温（人工巣穴内）と外水温（川）の関係はオオサンショウウオ孵化幼生の離散に関係があるのではないかと考える。また、ヌシの行動と幼生の離散にも関係があるのではないかと考える。

5 おわりに

ビデオ解析では、観察しきれていない時間帯が多くあり、これを解析する余地がある。さらにヌシの行動との関連も含めてさらに研究していきたい。そして研究成果を発信することで、多くの方にオオサンショウウオとその環境を守る大切さを訴えていきたい。

最後に、ご協力をいただいた榎木福一さん（三ちゃんS村前村長）、梅田司さん（現村長）、阿部勝彦先生（安佐動物公園園長）、田口勇輝先生（オオサンショウウオ生態保全教育文化研究所所長）、安佐動物園のスタッフの皆様、平野正先生（新庄学園統括教頭）、三上悠記先生（新庄学園教諭）に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

山口県周南市に県内3つ目の繁殖個体群，発見か？

○大野瑞季・松山鴻志・松本啓秀・松本彩良・宅野翔吏・嶋田千紗・松本理秀・今田竜聖・岡本 絢・吉永悠人・村田 満（学校法人山口高川学園 高川中学校）

はじめに

2024年7月31日(水)，周南市『漢陽寺』から，「檀家さんが，釣ったウーパールーパーを持ってこられた・・・」と連絡が入った（図1）．場所は，中国自動車道鹿野IC近くの錦川で，支流渋川との合流点から上流120mに架かった橋の下（図2），エサはドジョウ．

直ちに検査と計測に伺い，やや痩せたオオサンショウウオの幼生と確認した（図3）．

この結果は周南市文化財課に連絡し，一時保護の要請と繁殖地点を特定する調査と，組織の一部を採り遺伝子鑑定の必要性があることを訴えた．



図1. ウーパールーパー？



図2. 捕獲地点



図3. 全長17 cm f=5.3

調査方法

約2週間（8/1～19）現地調査（7.4km）を行った．聞き込み調査と環境調査，トラップと夜間踏査を行った．私達とは別に，徳山動物園の飼育員3名も夜間踏査を行った．

結果

釣り糸を切られた．釣った後で逃がした．目撃した．大きかった．土嚢の間に潜り込もうとしていた・・・など多くの情報が得られた．しかし，本種を見つけることはできなかった．

トラップでは，サワガニ・イシドンコ・カワムツ・タカハヤなどの魚類，ニホンイシガメ・クサガメが捕れた．アマゴやウナギも目撃した．エサは豊富と思われる．



図4. 好物イシドンコ



図5. トラップ調査



図6. 8/15 徳山動物園 収容

考察

本種の生息地としては，標高・水温・水棲動物相など適地と言えるが，個体を見つけることはできなかった．個体数は少ないと思われる．継続的に生息確認を行いたい．

10月19・20日の大会では，最新の情報を報告したいと考えている．

オオサンショウウオ骨格標本制作

林蒼一郎（愛知高等学校1年）

1. 背景

オオサンショウウオをはじめ多くの水生生物が絶滅の危機に瀕しているが、その原因の一つに環境問題がある。中でも近年、注目されているのが廃プラスチック問題である。そこで、廃プラスチックを使ってオオサンショウウオの骨格標本が作れないかと考えた。これによって、オオサンショウウオの骨格についての理解を促すと同時に廃プラスチック問題への意識を高め、環境保全ひいてはオオサンショウウオの保護にも貢献できるのではないかと考えた。今回は制作の状況と、その過程で浮かんだ疑問などを報告する。

2. 制作過程

廃プラスチックにも様々なものがあるが、今回は廃食品トレーと感染対策で使われ廃棄された透明のプラ板を使用して制作することにした。

2年前にも廃食品トレーでオオサンショウウオの骨格標本の制作に取り組んだが、満足のいくものではなかった。前回は、小さく作りすぎたために細かい部分が小さすぎてうまく作れない問題があった。そこで、改良してより大きな標本を再度制作することにした。

オオサンショウウオの骨格については、Fauna Japonicaの画像やネット上で公開された骨格の3D画像などの公開資料を参考にし、骨格の立体形状を描いて作成した。

3. 生じた疑問

骨格標本の制作過程では、いくつかの疑問が生じた。作成にあたって骨格の形状や骨の数などが微妙に異なることに気が付いた。その原因としては年齢や性別が関係しているのではないかと考えた。

脊柱の数は、様々な資料を見る限り約40個あることが分かったが、小さい個体については少ないように見えた。幼体の頃は骨の数が少なく成長とともに骨が形成されてくるということはないか。あるいは、成長過程の個体は、骨が観察できないほど小さいということもあるかもしれない。あとは、性別で生殖器と関連する部分の骨格の形状に違いが生まれる可能性はある。さらに、オオサンショウウオの関節や骨の間には何があるのかが気になった。

調べる限りではこれらの疑問は解消されなかったが、機会があれば調べたいと考えている。

東広島市におけるオオサンショウウオの保護活動 ～広島県立賀茂北高等学校科学研究部の取り組み～

○大友唯颯・仁井愛由美・徳永壮馬・梶野 宙・高平飛和・福田 玲（広島県立賀茂北高校）
爲平邦彦・浅井裕行・横田昌英（東広島市豊栄町乃美地域センター）
入江大介・藤中理恵子（広島県立賀茂北高校）・池田誠慈・清水則雄（広島大学総合博物館）

広島県東広島市に源流を発する棕梨川は標高約 400 m 程度の里山を流れる河川です。2011 年から開始した広島大学・東広島市・地域住民による協働調査により約 60 頭の成体が確認され、自然繁殖巣穴が 5 個以上見つかり幼生も多数確認できる繁殖群です。本個体群はふ化後の幼生から全長 430 mm までの個体がほとんど発見できず、平成 30 年 7 月豪雨を含め度重なる豪雨災害による個体の流下と上流の繁殖個体群の空洞化により個体群消滅の最前線にあると私達は考えています。調査を通じて明らかになってきた現状から、一時保護施設「オオサンショウウオの宿」が 2020 年 3 月に開所し、朝来大会でその活動を報告しました。今回はその後の県立賀茂北高校の科学研究部の取り組みについて紹介します。

成体の保護実績としては、5 頭の在来個体を保護し、2 頭を野生に帰しています。現在保護しているうち 1 頭は、初確認時より 5.5 km も下流のネギ畑の水たまりで見つかった個体で、棕梨川での最長流下記録となりました（弱っていたため養生中）。近年の災害級ではない豪雨でも、本種が流されていることがわかりました。幼生の保護実績としては、2021 年 10 月に流出卵を保護し約 7 割のふ化に成功しました。健康な個体は放流し、負傷個体 11 頭を毎月計測し、負傷部位の再生を経過観察しています。ふ化当時は全長 45 mm 程度でしたが、ちょうど 3 歳になる現在、約 150 mm まで成長しています。幼生は、頭胴長よりもむしろ尾長の方が若干伸びています。また、幼生の負傷部位は容易には再生しないことが明らかになりつつあります。

今後は、野外調査も含めて科学研究部で本種の保全について他にどのようなことができるのかを考え、主体的に行動していきたいと考えています。



『オオさん福祉から始まる保全教育～シェアピ式と育伝式～』

つまき ♪ : 「オオさんシェアピストを育てて増やそう！」

★飼育員さん・保全活動人さんの仕事とは

絶対に動物さんの側に立ちながら、お客さんを育て、お客さんに育てられることで、
動物さんと人の幸せを増やす！！

★育伝とは＝「お客さんを育てる意識」と、「そのための伝え方」

- ・お客さんを「保全方向に」育てる：この意識を持つだけで違ってくる。仕事が明確化&楽しく
- ・育てる＝伝える（説明）→「伝え方」が大事
- ・「その向こう側」を考える＝自分の言動や仕事の向こう側で、どういう人が育つか

★シェアピとは＝シェア・ザ・ハピネス・ウィズ・アニマルズの略

- ・動物さんとの幸せ共有体験
- ・動物福祉向上の取り組み＋その説明＋それへの参加
- ・楽しい保全活動&楽しい保全教育
- ・園館と保活の任務かつ存在意義かつ集客コンテンツかつモチベアップ要素
- ・個人でも仕事や暮らしの各所で楽しめる（シェアピをちょい足し）
- ・新しい視座・新しい方策・新しい感情・新しいエンタメコンテンツ
- ・これを楽しむ人が増えることで動物さんと人の状況を良くするためのもの♪

→それを創るのがシェアピ・クリエイター（飼育員さん・保全活動人さんも）

→シェアピを楽しむ人はシェアピスト

★「オオさん福祉」とは

★動物福祉（@園館）

- ＊その動物さんの、生態と個性と今と今後が必要とする
選択肢を用意する
- ＊ポジティブに選べるようにする
- ＊選択権は動物さんが持つ（保全活動においても）

＋ オオさんの嫌なことをしない
（「自分だったら？」と考える）



★育伝式：保全活動と園館ですること&注意点

- ＊「オオさん福祉向上の取り組み」と、その「説明」（伝える）
 - ＊「常に気にして取り組んでいる」という説明
 - ＊言葉選び
 - ＊「逆教育」にならないようにする
 - ＊イベント等に連れて行かない
 - ＊「見えなくていい」を広める（引っ張り出さないことを経験）
 - ＊居場所を公表しないを広める
 - ＊「味」の話をしない
- オオさんの手法が「シェアピ式」



★シェアピ式：保全活動と園館ですること

- ★「オオさんとシェアピる機会」を創る
- ＊「オオさん福祉向上の取り組み」と、それへの「参加」
（選択肢増設や掃除等のイベント、金品・情報などの寄附等々）
- ＊「嫌なことをしない」ということを経験している」と伝えて育てる
（そっと歩く・引っ張り出さない・触らない・川に入らない等）
- ＊「それでも楽しい」と「確信」を持つ（見えなくても！）
- ＊「伝え方」で「育ち方」が変わるので工夫する
- ↑一般の方が、「保全活動や園館に求めて欲しいこと」でもある
（一緒に変わっていくために）



『シェアピ式と育伝式で、園館と保全活動と博物館とエジプト考古学の、振興策や改善策を応援☆』

- ・シェアピ・クリエイター／園館アドバイザー／
育伝アドバイザー（博物館も対象）／
エジプト考古学サポーター（元早稲田隊）
- ・2019年～とある園館とコンサルティング契約中
- ・2009年～オオサン会参加（役員も数年間）
- ・著作4冊（3冊はオオさん登場）



プロフィールとリンク一覧 オオさんYouTube オオさんインスタ オオさんグッズ

鳥取県南部町における広島県産オオサンショウウオ 飼育展示個体の3年間の報告と普及啓発効果について

桐原真希（複合施設キナルなんぶ「なんぶふれあい館」）

<経緯>

鳥取県南部町は、県西部に位置し、2015年に環境省から重要里地里山500選に自治体全域を指定された町である。2021年3月末に「複合施設キナルなんぶ」が完成し、同年5月1日に開館した。施設内に「なんぶふれあい館」が併設され、町内の文化や芸術、自然科学などを知る場所としてガイドが1人常駐している。オオサンショウウオを町民により近く感じてもらうために、冷水完備の大型水槽を導入し、開館前の2021年4月21日に広島市安佐動物公園より2004年10月25日生まれの子メスを譲り受け現在に至る。県内では県立博物館と本施設のみで生体展示である。2004年生まれの個体は、町と同じ年齢という共通項を得るために南部町より希望したもので、愛称は投票で「キナるん」と決まり、この名前が2021年10月の誕生日プレゼントとなった。

<成長記録>

2021年4月から2024年8月まで3年4ヶ月の飼育記録から、約3cm成長し、体重は約2kg弱で大きな変化はない。2024年4月の測定では、全長63.2cm、体重1860gと、肥満指数は正常値を保っている。個体を管理している大型水槽は、ガイドデスクの正面に位置し、日常的な動きが捉えやすく、可能な限り記録を残している。脱皮に関しては、毎月4～10回程確認されているが、閉館後から翌日の開館までの16時間は観察することができないので、実際にはこの数字よりも多く脱皮をしていると考えられる。

<普及啓発>

本施設は、南部町立西伯小学校敷地内から直接入館できる立地であり、日常的に複数の児童が小学校より徒歩1分以内で、入館料なしで、オオサンショウウオの生体に会うことができる全国でも極めて珍しい位置関係にある。頻繁に通う児童は、「あくび」、「息づき」、「脱皮」、「給餌」、「身体測定」を見られるのが通例となっている。また脱皮片が、時折水槽内で漂っていることがあり、網で掬い取り乾燥標本とし、触れられる脱皮片として展示している。脱皮片の標本作りを手伝ったことがある児童も複数名おり、滅多に出来ないことだと家庭で報告した例もあった。

<課題>

特別天然記念物を管理しているにも関わらず常駐でオオサンショウウオ専属のガイドが配置されていない。また、傷病個体が緊急保護されても、同じ水槽に入れることができず救命することができないなど、施設として複数の課題があり解決に努めていく必要がある。

同じ地点を何度も調査した結果

川内彬宏（環境省環境カウンセラー・名張市教育委員会）

名張市では2013年度から交雑種対策を行っているが、「捕っても捕っても交雑種がいる」と評判の場所がある。今回、そこを何度も調査した結果を整理したので報告する。

名張市赤目町を流れる滝川の下流に「片山井堰」という堰がある。この堰は高さ約2.7m、幅約35mのゴム引布製起伏堰（いわゆるラバーダム）で、2001年の全面改修工事により現在の形になった。直下に沈砂池があり小魚が滞留しているほか、一帯約200㎡に護床ブロックが敷き詰められており、オオサンショウウオにとっては恰好の棲み家となっている（図1）。

この地点は、本流・宇陀川の合流点から約500m上流に位置しており、その区間に遡上を妨げるような大きな障害物はない。堰に魚道は付いているものの運用はされておらず、オオサンショウウオが遡上することは困難である。そのため、宇陀川から滝川に侵入した個体や堰の上から流下した個体がこの堰下で行き場をなくしているものと思われる。



図1. 片山井堰

表1. 片山井堰における調査結果（新規個体）（2020～2024）

	2020	2021	2022	2023	2024	計
日本産	6	2	1	0	0	9
交雑種	16	8	6	10	9	49
計	22	10	7	10	9	58
雑種率	72.7%	80.0%	85.7%	100%	100%	84.5%
調査回数	13	12	6	10	8	49

2020年から2024年までの調査結果は表1のとおりである。約5年の間に合計58個体の新規個体（マイクロチップが入っていない個体）を捕獲し、日本産9個体、交雑種49個体（全て持ち帰っている）、雑種率は約84.5%という結果であった。

また、雑種率は2020年72.7%、2021年80.0%、2022年85.7%、2023年と2024年は100%（8月末時点）と、調査の効果は全くと言っていいほど現れていない。次に、その交雑種の平均全長を図2に示す。

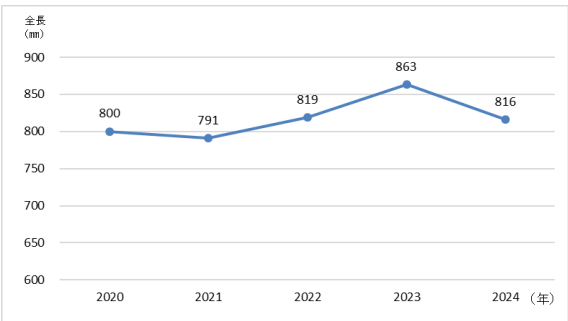


図2. 片山井堰における交雑種の平均全長

2013年度の交雑種対策開始以降、市内で捕獲される交雑種の大きさは継続的な捕獲圧の効果により徐々に小型化しているが、こちらも雑種率と同様にその効果が明確に現れていないのは、単純に交雑種への捕獲圧が不足していたものと推察する。

以上のような結果となっているが、滝川の交雑種が発端となり、同じく宇陀川の支流である阿清水川、滝谷川、室生川等へ生息域を広げたと推測されることを踏まえると、この状況を看過することは得策ではなく、引き続きしつこく通おうと思っている。

なお、この調査は文化財保護法の規定による現状変更等許可及び外来生物法の規定による防除の確認（2024.7以降）を受けて実施しているものである。

最後になるが、日頃から調査地の草刈り等をしていただいている赤目町丈六区の皆様と本稿の校閲を依頼した清水善吉氏（三重自然誌の会）に厚く御礼を申し上げる。

（参考文献）清水善吉. 2023. 木津川上流域におけるオオサンショウウオ属の生息状況. 三重自然誌の会編, オオサンショウウオ緊急調査報告書, 名張市

島根県美郷町のオオサンショウウオ調査，再開しました！

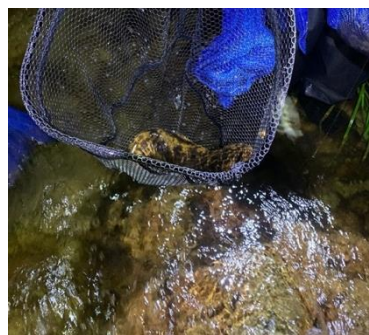
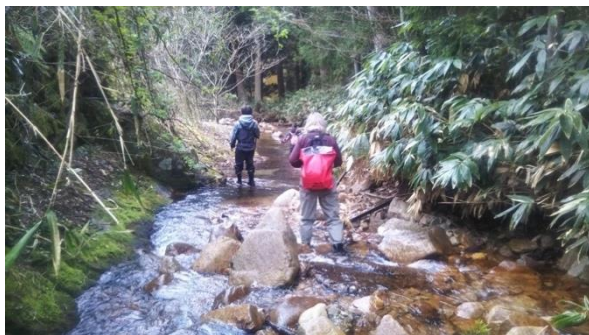
松井久実（麻布大学 大学教育推進機構/獣医学部）

【はじめに】島根県邑智郡美郷町は江川水系の中流域に位置し，本川に加え三瓶山等からの支流を加え日本海へ流れ行く流域にあたる．江川上流には邑南町が位置し，瑞穂ハンザケ自然館が継続的に町内のオオサンショウウオ生態調査を実施されているが，美郷町においては 1999 年に旧大和村地域に対し島根大学が調査を実施，2002 年に教育委員会が報告書をまとめているものの，その後 20 年以上調査は行われていない．山陰の主流河川である江川流域のオオサンショウウオの分布や生態の情報の蓄積は日本のオオサンショウウオ保全を進めるうえで益になると考え，麻布大学は 2022 年に予備調査，2023 年 3 月から本調査を開始した．島根県美郷町には麻布大学のサテライトキャンパスとしてフィールドワークセンターが設置されており，美郷町と麻布大学に以前からのご縁があったことが今回の調査の実現につながった．

【調査】2000 年代の調査は町内の支流の踏査とオオサンショウウオの目視確認によって行われている．以前の調査から約 20 年経過しているため，現在の生息分布状況を確認し，本種がどのような生態生理を有するのか調べることを，および本調査におけるモバイルリアルタイム PCR を用いた環境 DNA 分析の有効性を確認することを調査の取りかかりとした．環境 DNA 分析の併用を選択したのは，1 回の調査期間が短いため，調査期間中に調査地の絞り込みや優先順位づけをするためである．

調査は 2023 年から 2024 年にかけて，それぞれ 3 月と 8 月に 3 日間の調査期間を設定，夜間の河川踏査調査，ポータブルエコーを用いた生殖腺（精巣・卵巣）の確認，河川水からの DNA 抽出液を調整，モバイルリアルタイム PCR を用いたオオサンショウウオ mtDNA 分析で構成した．捕獲個体は身体計測後，マイクロチップを埋め込み，元の地点に放流した．調査チームは松井，麻布大学生数名，美郷町在住の現地協力者 1 名で実施した．美郷町内で過去の調査記録がある支流のうち，現在も河川がよく保存されているものを主要な調査河川として選択し，その他にも 2～3 支流の踏査と環境 DNA 分析を実施した．

【結果】調査期間中に 4 河川 23 頭のオオサンショウウオを捕獲・標識した．性別の内訳はオス 10 頭，メス 13 頭で，捕獲サイズは全長 26.1cm–79.8cm（平均 52.2cm ± 11.4SD）であった．捕獲した全頭に対するエコー検査で，3 月 8 月ともに精巣または卵巣構造を確認できたが，産卵期である 8 月に捕獲されたメス 2 個体において確認された卵子径が 2mm（成熟サイズは 5mm）と，当期の産卵が難しいと判断できるものがあつた．環境 DNA 調査は実際に踏査した支流 4 河川に対し行い，支流河口の河川水 1L のフィルタリングを経て 500μl の DNA 抽出液を現地で調整し，マスターミックス製品を利用して 50 サイクルの定量 PCR を行った．ポジティブコントロール（ 10×10^4 コピー；Ct 値約 32）に対し，どの河川水サンプルも Ct 値約 40 で検出された．調査支流のなかには個体数の多少があるが，潜在個体数との関連を示すデータは今のところ得られていない．



環境 DNA を用いた江の川土師ダム下流における オオサンショウウオの生息適地の検討

宮園誠二・宮平秀明・中尾遼平・赤松良久（山口大学大学院創成科学研究科）

河川環境の改変により様々な河川生物の局所・広域的な減少が報告されている。特に、特別天然記念物のオオサンショウウオは、生息場の喪失・悪化への耐性が弱く、河川改修工事等の影響が懸念されている。本研究では、環境改変が著しい江の川土師ダム下流の支流を対象として、オオサンショウウオの環境 DNA を季節的にモニタリングすることで対象種が定住している可能性が高い支流を推定した。さらに、オオサンショウウオの環境 DNA 検出率と環境要因との関係を解析することで、対象種が支流を利用するために必要な環境条件を検討した。

本研究は、一級河川江の川の土師ダム下流約 35km 区間における 16 本の支流を対象として(図 1)、環境 DNA 分析のための採水を 2021・2022 年の 3 月, 7 月, 8 月, 10 月, 12 月に行った。採集した水試料はろ過, DNA 抽出, 定量 PCR を行った。続いて各地点のオオサンショウウオの検出率(環境 DNA の検出回数/調査回数)を GIS マップに可視化し, どの調査地点でオオサンショウウオが定住し得るか検討した。さらに, 相関解析を用いて, オオサンショウウオの検出率と環境要因(支流流量・護岸割合)との関係を検討した。

結果として, 合計 14 本の支流でオオサンショウウオの環境 DNA が検出された。また, 支流ごとにオオサンショウウオの検出率が顕著に異なることが明らかとなり, 特定の調査地点においてオオサンショウウオの定住場所となり得ることが示された。さらに, 相関解析の結果から(図 2), オオサンショウウオの検出率と支流流量との間に正の相関, 護岸割合との間に負の相関がみられたことから, 河川規模が大きく, 人為的改変が相対的に低い支流にオオサンショウウオがより多く生息している可能性が明らかとなった。

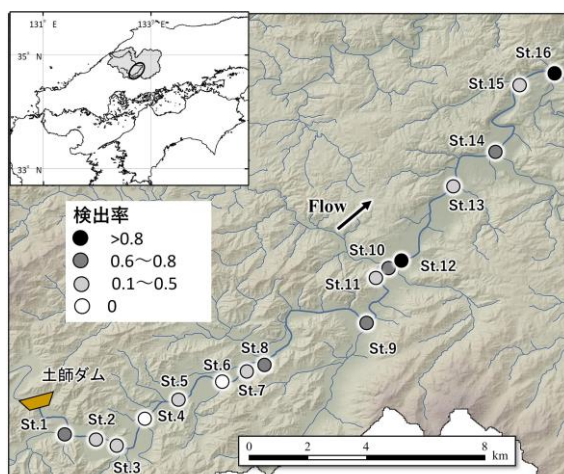


図 1. 調査地点図

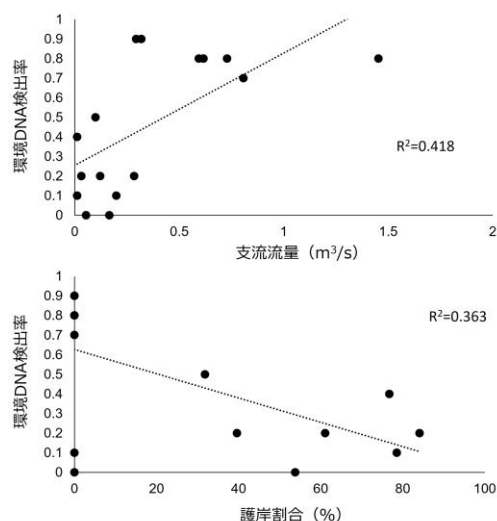


図 2. 環境 DNA 検出率と環境要因との関係

鳥取県におけるオオサンショウウオの生息状況の推移

坂本光織（広島大学大学院 人間社会科学研究科）・高原輝彦（島根大学 生物資源科学部）

オオサンショウウオ *Andrias japonicus* (Temminck, 1836) とは、両生綱 Amphibia, 有尾目 Caudata, オオサンショウウオ科 Cryptobranchidae に属する世界最大級の両生類である。岐阜県以西の本州と四国、九州の一部地域にある河川の中上流域に生息していることで知られる。夜行性で、昼間は川岸にある岩の間隙に身を潜めている。また本種は季節的な繁殖移動を行うことで知られている。本種は、1952年には文化庁によって特別天然記念物に指定され、ワシントン条約や種の保存法などによって輸出入や捕獲・移動が統制されている。しかし、環境変動による生息地の破壊、河川整備等により本種の生息環境は悪化の一途を辿っている。加えて、近年では本種とチュウゴクオオサンショウウオ間で遺伝子汚染の発生が確認されており、本種の遺伝子純系の消失が懸念されている。そのため、IUCNのレッドリストにおいて危急種（VU）と評価され、環境省や鳥取県のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類として記載されている。未だ、本種の生息地域や生態には明らかになっていない点も存在しているが、数々の脅威によって現在も尚その数を減らし続けているため、本種の保全は急務である。

研究対象地域である鳥取県は、中部の天神川水系と西部の日野川水系により、古くから国内有数のオオサンショウウオの生息地として知られているが、千代川水系内の生息密度の高い生息地などは解明されていない。また、鳥取県内においても、生息環境の悪化により本種の自然生息に適していない環境となりつつある事が指摘されていたが、繁殖期の遡上の際に堰堤を登れない個体が発見されるなど、都市開発による生息環境への影響が懸念されている。更に、本種とチュウゴクオオサンショウウオ間の遺伝子汚染は、鳥取県に隣接する岡山県においても確認されている。近年では、ここ広島県においても遺伝子汚染の発生が相次いで確認されている。その為、鳥取県内においてオオサンショウウオの保護の強化は強く望まれており、保護の強化に向けた生息情報の蓄積が重要な課題となっていた。また、生息状況の悪化が危惧されている鳥取県内において、散在する本種の保護・生息情報を集約し、データベース化する事は、生息適地の推定や絶滅のリスク・生息地の評価、寿命が極めて長い本種の個体群の継続性に対する評価を行う上で重要であると考えられた。

そこで、本研究では、鳥取県における文献調査を実施した。

その結果、各文献に散在していた保護・生息情報を集約して実施した文献調査では、566件からなるデータベースを作成することができ、本データベースによって、各文献では短期間でしか確認されていなかった傾向を1926年～2006年という長期間の中で新たに確認する事ができた。また、本研究により鳥取県内の生息に適していない地域の発見に至った。

今後は、2007年以降の鳥取県内におけるオオサンショウウオの保護・生息情報を集計し、データベースをより拡張させることで、得られた分布情報と鳥取県内における環境の変遷などとの関係性を解析し、本種の保全計画へ活用されることを期待したい。

オオサンショウウオ属における 骨組織学的手法を用いた年齢推定

石川世奈(京大・人間・環境)・西川完途(京大・地環)

近年、オオサンショウウオは日本に人為的に移入されたチュウゴクオオサンショウウオとの交雑問題に直面している。天然記念物のオオサンショウウオを効果的に保全するには交雑オオサンショウウオの生態や生活史に関する知見を増やす必要がある。

多くの両生類で用いられている年齢を推定する手法の1つとして骨組織を用いたものがある。これは骨断面に木の年輪のように形成される成長停止線を数えることで年齢を推定する。オオサンショウウオでは実年齢のわかっている飼育個体を用いてこの手法の有効性が試されているが、これまでに野外の個体群に適用された例はない。

本研究では、野外で多く捕獲される交雑オオサンショウウオを使用して、骨組織学的年齢推定法を用いて成長パターンを調べた。淀川水系で捕獲された交雑オオサンショウウオから指骨を採取し、凍結ミクロトームで切片化した。その後、得られた切片をヘマトキシリンで染色し、顕微鏡で観察して成長停止線の本数を数えた。

これまでに使用した全長 100mm～1000mm までのすべての個体で成長停止線を確認することができた。また、成長停止線の本数は最大 49 本確認できた。年齢と全長では有意な相関は見られたが、同じ年齢でも体サイズが大きく異なり、成長率に大きな個体差が見られた。



図 全長 885 mm の個体の骨切片の顕微鏡写真
成長停止線を矢印で表す (31 本)。

ブナが育んだ宇佐川の宝ものオオサンショウウオ

○榎本龍生（岩国市立宇佐川小学校6年）・村田 満（学校法人山口高川学園）

はじめに

僕の通う宇佐川小学校は、オオサンショウウオの生息する宇佐川の側にある。貴重な天然記念物が生息していることは知っていたが観察したことはなかった。2023年8月12日、現地観察会が行われることを知り初めて参加した。そこで全長95cmの巨大な成体を捕獲し観察できた（図1）。また2024年2月12日の離散幼生の調査に参加した。このときブナなどの川底の落ち葉に、オオサンショウウオの幼生を見つけた（図2）。今年は8月10日に行われ、昨年度のようにすを参加者の皆さんに発表することができた（図3）。

ぼくが守っている「ふるさとの宝物オオサンショウウオ」をみなさんに紹介する。



図1. 2023年観察会

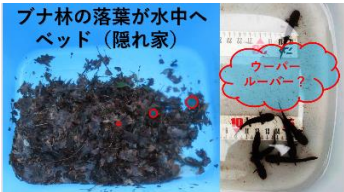


図2. 離散幼生調査



図3. 2024年観察会

方法

夏は午後8時～10時までの川に入り、オオサンショウウオを捕獲した。検査後に、捕獲地点に放流した。冬の離散幼生調査は、昼間だが水温は3℃と冷たかった。川底の落ち葉をとり、中から水生動物とオオサンショウウオのあかちゃん（幼生）を探した。

結果及び考察

- (1)2023年度観察会（約60人）5頭、2024年度観察会（約80人）6頭を捕獲した（表1）。
- (2)深谷川の災害復興工事が行われ、19頭が一時保護された。人工巣穴も作られた。
- (3)2024年2月12日、5頭の離散幼生が見つかった。(4)深谷川の個体は、全て健康だった。

表1. 計測した6頭の記録

個体	11	12	13	14	15	16
全長mm	620	530	630	770	755	675
頭長mm	100	80	93	120	110	120
眼間幅mm	65	写真判定	55	60	65	45
尾基部mm	62	50	70	79	72	55
尾最大幅mm	77	70	72	82	90	70
右前足(前肢右)	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	4欠損
左前足(前肢左)	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
右後ろ足(後肢右)	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
左後ろ足(後肢左)	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
孔(頭胴長)mm	420	330	420	475	500	440
スリットmm	25	15	15	30	15	12
総排出孔の肥大	肥大	なし	なし	肥大	なし	なし
体重kg	2.080	1.155	2.060	2.990	3.140	1.815
粗脂肪量(肥満度)	8.7	7.8	8.2	6.5	7.3	5.9
マイクロチップ番号	392145000737409	392145000812399	392145000803188	392145000873922	392145000650081	392145000735294

三段峡におけるオオサンショウウオの食性調査 —本種は漁業者の害獣なのか—

本宮芳太郎・田口勇輝・本宮炎・井上嵩裕・イージャス・ラフィー・ビエンエリ・
大本武・中原愛・蜂谷英介・和崎伸・梅木拓未・山路高史・田守人・平尾龍平
(特定非営利活動法人三段峡—太田川流域研究会)

本発表では、安芸太田町（太田川支流柴木川）でのアユに着目したオオサンショウウオの食性調査をした結果を取りまとめる。

2024年3月に本町民の漁業関係者、一般市民、高校生、環境活動家の4属性に分類し、60人を対象に本種への意識調査（アンケート及びヒアリング）を実施し、漁業関係者と本種の保全活動に確執があることが分かった。その理由として本種が放流したアユを食べる食害の影響を心配する声が多かった。またウナギ漁では本種の誤捕獲の例が多く、「増えすぎている」「交雑種ではないか」との疑念の声があった。そこで本種の食性調査及び交雑の有無の確認を実施した。

調査地は特別名勝三段峡入口から下流明神橋の約3 km範囲で標高約300 mの渓谷である。本種の生息は知られていたが、過去には本格的な調査は行われておらず2018年より特定非営利活動法人三段峡—太田川流域研究会が生態調査を実施し、合計91個体の成体と幼体、幼生および産卵を確認している。本河川のように比較的大きな渓谷での研究例は少なく貴重な調査地と考えられる。

調査はアユ漁がもっともさかんな8月と9月を調査期間に設定した。2024年8月11日から9月14日までの期間に夜間踏査14回とカゴ罟による捕獲を4回実施し、強制嘔吐法にて胃内容物を調査した。全長481-970 mm(平均 $\pm$ SE = 675 $\pm$ 65 mm)、体重650-6335 g(平均 $\pm$ SE = 2158 $\pm$ 513 g)の55個体を確認した。夜間踏査では目視による調査地の魚類相も確認した。交雑の有無については、体の斑紋から交雑と思われる個体は見つからなかったが、3個体は遺伝子解析を依頼した。

捕獲した55個体（夜間踏査39個体、カゴ罟19個体）のうち42個体から胃内容物を採取し、13個体からは胃内容が無いことを確認した。55個体のうち魚類を13個体（24%）から、サワガニを17個体（31%）から、ハリガネムシを7個体（13%）から、オオサンショウウオの幼生を2-3個体（4-5%）から、卵を4個体（7%）から、脱皮片を13個体（24%）から採取した。魚類の内訳は、アユを3個体（5%）から、アカザ、カワヨシノボリ、カジカを各2個体（4%）から、同定不能のものを4個体から確認した。本種幼生は全長75 mmの全身と、骨の一部と思われるものであった。なお、小石や、植物の破片の胃内容物も確認したが、人工物の採取はなかった。サワガニやハリガネムシの採取が多かったが、このことは消化されにくいためかもしれない。

本種は川底で待ち伏せをして捕食行動をするが、捕食しやすいと考えられる底生魚類の3種（アカザ、カワヨシノボリ、カジカ）以外にも遊泳魚類のアユの捕食もあった。ただし、それぞれ数個体からの捕食例であり、捕食されていた魚4種の間には有意な差はなかった。内藤（2018）は本種が特定の生物を選択的に捕食しているわけではなく、季節に応じて捕らえやすい生物を捕食していることを示している。本研究も同様の結果を示すことから、アユ漁に対しても影響は少ないと考えられた。なお、調査地ではカワムツやムギツクなどのコイ科魚類が最も多く観察されたが本種からの採取例はなかった。このことは、アユがオオサンショウウオに捕食されやすい行動生態をもっている可能性を示唆しているのかもしれない。調査中の光に驚いたアユが川底の岩の隙間に隠れる姿も多く見かけられた。何かの拍子に逃避行動をとったアユが本種へ近づいてしまい捕食される可能性は考えられた。今回の調査結果を漁業関係者へ丁寧に伝え、不漁の原因考察と本種の生息地保全の両立のため、漁業関係者とも手を取り合って河川全体の環境保全を協働して進めていきたい。

鳥取県日野川上流域の支流における オオサンショウウオの生息状況と生息環境

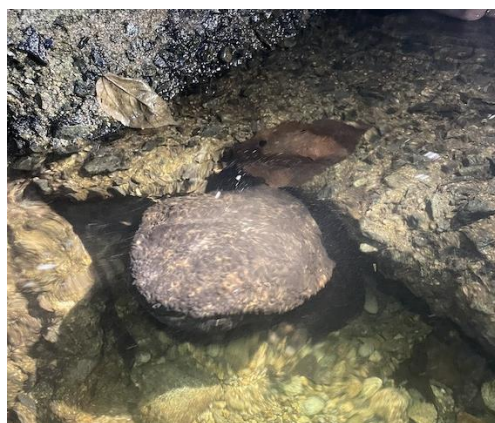
岡田純・岡田龍河（日本ハンザキ研究所・多里はんざけを守る会）

オオサンショウウオは大小様々な川に生息しているが、小河川で小型の個体が発見されることが多い。小河川はオオサンショウウオの産卵場所や幼生・幼体の生息場所として重要であると考えられるが、河川改修や構造改善などに伴いコンクリート水路等になってしまうことがある。そのため、支流（小河川）におけるオオサンショウウオの生息状況の把握やその生態的な役割を明確にすることは地域集団の保全を図る上で急務である。

今回、日南町多里地区の日野川に流入する小河川においてオオサンショウウオの生息状況と生息環境調査を行なったので報告する。



コンクリート水路となった環境



コンクリート水路で見つかった個体



河床に礫が多い環境



発見された幼生

岩国市宇佐川におけるオオサンショウウオの保護について

富岡由美子・原田さなみ（岩国市文化スポーツ振興部文化財課）・
森田敏弘（復建調査設計株式会社）

1. はじめに

岩国市錦川水系宇佐川には、本州の繁殖分布の西限として、オオサンショウウオが生息している。

近年、堰堤やダムの建設、護岸工事等でオオサンショウウオの生息環境が危惧される中、かつては生息していなかった宇佐川下流域等で漁業施業中に多くのオオサンショウウオが確認されている。

岩国市では令和元年～5年度にかけて、「特別天然記念物オオサンショウウオ再生事業」を実施し、令和6年3月に「岩国市オオサンショウウオ再生事業報告書」をとりまとめた。

本事業は、以下に示す2つの取組を中心に実施している。本発表は、事業について、岩国市の富岡・原田が報告し、現地調査実施時のトピック等について調査を担当した復建・森田が報告する。

- ① 宇佐地区における緊急保護個体の放流事業と繁殖生息地の復元事業
- ② 宇佐川及び錦川中下流域生息個体の移動事業

2. 「宇佐地区における緊急保護個体の放流事業と繁殖生息地の復元事業」について

2.1 緊急保護個体の放流事業について

平成24年に開催された「日本オオサンショウウオの会 第9回山口（岩国市錦町）大会」において、宇佐川で現地見学を行った際、極度に痩せた個体が多数確認された。岩国市は日本オオサンショウウオの会の提案を受け、合計32頭を緊急保護し、岩国市の保護施設で6年間飼育し、健康状態を回復させた。その間に、「特別天然記念物オオサンショウウオ緊急調査事業」として宇佐川におけるオオサンショウウオの分布を調査し、保護した場所より5kmほど上流の「宇佐地区」を放流適地とし、平成30年及び令和元年に緊急保護個体を放流した。

2.2 繁殖生息地の復元事業について

かつては生息地であった「宇佐地区」を繁殖生息地として再生させる取組として、岩国市として、緊急保護個体の移動放流及びその後のモニタリング調査、河床置き型人工巣穴の設置を行った。

3. 「宇佐川及び錦川中下流域生息個体の移動事業」について

「特別天然記念物オオサンショウウオ緊急調査事業」において、下流域等で確認される個体は、豪雨により出水等のため本来の生息地であった宇佐川上流域等から流出した可能性が極めて高いと結論づけ、下流域で保護された個体を直線距離で16kmほど離れた上流域に戻す取り組みを行っている。令和5年度末で合計115頭を上流域に移動放流している。

これらの事業の実施にあたっては、特別天然記念物オオサンショウウオの現状変更許可のもと、「岩国市オオサンショウウオ調査研究委員会」のご指導及び多くの関係機関・地域の皆様方のご協力を受けて実施した。ここに厚くお礼申し上げます。

岩国市
オオサンショウウオ再生事業
報告書



令和6年3月

岩国市

街中で繁殖するオオサンショウウオ —地元住民との市民科学によるヌシの行動観察—

田口勇輝・右田亜友美・右田旭・梶山早苗・富田カヨ・井崎洋子・佐々木貞子・豊島嗣美・
中村百百子・田口大河（オオサンショウウオ生態保全教育文化研究所）

本発表では、流出卵が見られる堰堤周辺の夜間踏査と、地元住民によるオオサンショウウオの行動観察の結果から、街中で繁殖する本種の生息情報を取りまとめる。

調査地は、広島市安佐北区を流れる太田川支流の大毛寺川である。平成15年（2003年）に4870mの区間を大掛かりな災害復旧工事がおこなわれているが、山間から流れ出た川が、堆積した土砂によって流路幅3～10mほどで市街地を流れている。環境にも配慮した工事が実施されており、ところどころにある堰堤にはすべてスロープ状の魚道が設置されている。本河川では、ある堰堤の下でオオサンショウウオの生息が確認されており、ここ数年間には毎年のように堰堤下流で流出卵も確認されていた。2023年9月20日には同じ場所で541個の流出卵が見つかり、卵の発生も確認できた。2020年11月26日には、近くのヌシに攻撃されて首の辺りが大きく裂けて死亡したと考えられる全長714mm、体重2.8kgの雄も見つかっている。

この堰堤の上下流600m区間において2024年5月11日から9月12日に計6回の夜間踏査をした結果、全長649～1018mm（平均 $\pm$ SE = 814 ± 59 mm）、体重1920～5270g（平均 $\pm$ SE = 3724 ± 548 g）の5個体を確認した。このうち、堰堤下の横穴に隠れているヌシと思われる個体は、全長1018mmの最も大きな個体であり、頭頂部に黒くくすんだ怪我跡があった。

この堰堤で地元住民に協力してもらい2024年6月3日から9月10日まで適宜、観察記録を付けてもらった。朝6-8時台、昼11-13、15時台、夕方17-18時台、夜19-22時台に35日間53回の観察をおこなった結果、堰堤下から出てくる大型個体や上下流から時よりやってくる700mm前後の個体の行動を確認できた。最もよく観察されたのは、堰堤の下に隠れている大型個体で、呼吸に出てくるところであった。呼吸の仕方は、上半身だけ横穴から出てきて鼻先のみ水上へ出して呼吸をしたのちに後ずさりして帰っていく行動、体全体をだして呼吸をしたのちに体を回転させて頭から帰っていく行動、呼吸のあとに数分間近場を徘徊して帰って行く行動が見られた。呼吸は3回鼻先を出すことが多かった。水が多いときに出てきて流されてすぐ戻っていく行動や、頭だけ出して大きなあくびをするような行動も見られた。他個体では、数十m下流のヨシ原から出てきた個体が堰近くまで歩いてまた帰っていく行動や、同個体がそのまま堰堤下の横穴に入っていく行動もあった。また、堰堤の少し上流で茶色の強い他個体が出てきたこともあった。これらの観察は6月3日から8月6日までほとんどの観察日に確認することができたが、猛暑日が続いた8月7日から8月26日までは、全く個体の姿が見られなくなった。なお、8月12日と22日の夜間調査時も水温は24℃あり、個体を見つけることはできなかった。

本観察結果から、ヌシと考えられる大型個体が繁殖期だけではなくおそらく1年を通じて同じ堰堤下で隠れていることや、数頭の他個体が堰堤の周辺で生息していることが分かった。ここでは数年にかけて繁殖行動が見られているが、毎年のように流出卵が見られているため横穴の条件がよくないと考えられる。生息地の連続性が確保されているため繁殖行動に集まってくる個体はいるが、よい巣穴ができる環境は不足していることが推測された。また、河畔林のない住宅地を流れる河川のため夏季に水温が上昇しやすく、高水温によって活動に制限がかかっていることが示唆された。産卵日が9月20日と他地域よりもかなり遅いことも、このことに起因しているかもしれない。

瀬戸市蛇ヶ洞川における在来個体保全・交雑個体防除の取組み

佐野 元（瀬戸市文化課）

2023年6月に、瀬戸市蛇ヶ洞川流域でオオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体が発見された報道発表がなされ、愛知県内での初例となった。以降瀬戸市は、瀬戸オオサンショウウオの会等関係団体や専門家の協力を得て、交雑個体の防除への取組みを開始した。報道発表当時(2023年6月14日現在)、蛇ヶ洞川流域の個体はMC登録件数92(滅失個体含む)の内、京都大学・広島大学によるDNA解析を実施したのは22個体であり、うち3個体が交雑(交雑率13.6%)であった。

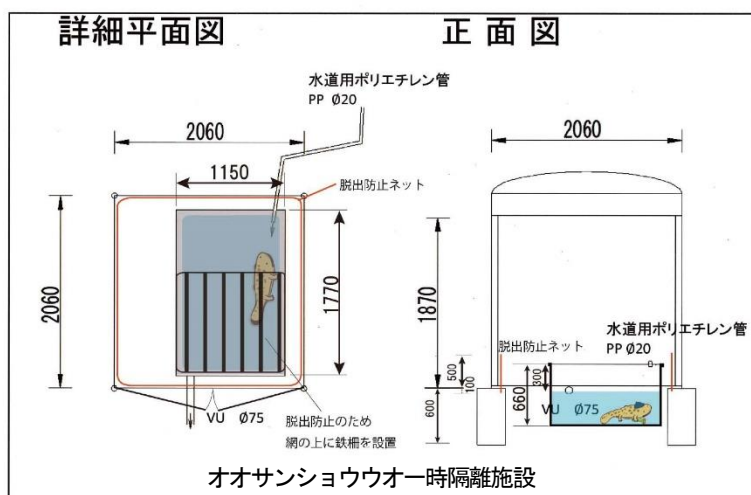
交雑個体防除への取組みとして、有識者からなる瀬戸市蛇ヶ洞川オオサンショウウオ保全検討会での検討をもとに、交雑個体捕獲も念頭に置いた夜間河川調査を行い、捕獲個体がDNA解析未了の場合は河川内に設置した一時隔離籠に留置し、解析結果が出るまで一時隔離することとした。同年11月以降国庫補助事業を活用する中で、一時隔離する簡易施設(下図参照)を陸上に設置し同様の運用を行っている。

交雑個体のほとんどは全長111cmのF1個体「シロタ」の捕獲された地点の周辺で発見されており、現在まで6個体確認され4個体を捕獲(捕獲した亜成体1個体を除く)し、和歌山県立自然博物館をはじめ他所で飼育展示、学術標本等となっている(2024年9月15日現在MC登録件数101(滅失含む)、うちDNA解析は48個体(交雑率12.5%))。

交雑防除の取組み以前から在来個体の繁殖活動を保全・推進する取組みを行っているが、近年



の猛暑により元から水量の少ない蛇ヶ洞川本流の上流域でのダム放水の制限等がなされ、人工巣穴を含む繁殖巣穴周辺での水位の低下が目立ち、良好な繁殖環境の妨げとなっている。このため、繁殖期前の人工巣穴清掃を行うとともに、自然繁殖巣穴や人工巣穴の面する淵の水位を保つべく小規模堰堤等に夏から秋にかけてシートをかけて漏水を防ぐ等の取組みをしている。



広島市八幡川交雑種除去戦略としての産卵巣穴調査

○桑原一司・茶村真一郎・吉川 良・近末 訓・逸見敬太郎・田口勇輝・坂本光織・
藤中陽菜乃・池田誠慈・三浦郁夫・清水則雄（広大プロジェクトセンター）

広島市西部の二級河川八幡川上流部において 2022 年 5 月 13 日に交雑個体が見つかった。その後の調査では、中上流部の魚切ダムから上流部の 4 km 四方の本流および複数の支流という限定された区域に推定約 300 頭の交雑個体が生息しており、交雑率は約 82% であった。

八幡川の交雑種除去戦略は、次のとおりである。①交雑種の生息域の確認、②生息域境界の監視、③交雑個体捕獲除去、④繁殖阻止のための卵塊除去。広島市は、2023 年度、2024 年度に、広島大学オオサンショウウオ保全対策プロジェクト研究センターと広島市安佐動物公園に調査業務を委託、特定外来生物指定後は、広大プロジェクトセンターと安佐動物公園が環境省防除団体の申請をしている。

八幡川の交雑種除去戦略の特徴は、マイクロチップを装着してのデータ収集及び産卵巣穴の探索と卵塊の除去である。マイクロチップの着装放流には、賛否があるが、移動を伴わない防除調査上の放流は環境省の防除団体認定・許可のもとで実施は可能である。また、交雑ヌシが保護する卵塊の除去については、広島市八幡川の場合は交雑種の DNA 分析結果と外観判定が 100% 一致していること、これまで検査した離散幼生及び卵塊卵のすべてが交雑判定であるなどの認識のもとに、文化庁への申請の上で卵塊除去を実施している。

広島市のみならず、各地の交雑問題の解決のためには、交雑繁殖阻止の戦略は重要である。そのためには、産卵巣穴の発見が必須であり、産卵巣穴が見つければ、集合してくる繁殖群の中から交雑種を効率よく捕獲することも可能である。また、交雑個体がヌシの場合は、卵塊の除去が交雑種消滅への近道であると考ええる。

産卵巣穴の探索には、離散幼生の分布調査が有効である。離散直後の幼生は落ち葉だまりに潜みながら徐々に下流へと分散する。よって、離散幼生群の分布の最上流端付近に産卵巣穴がある。八幡川における 2024 年 2 月 6 日～2 月 18 日の幼生調査では、8 つの幼生群が認められた。本年 8 月 28 日からの繁殖期調査では、幼生が分布していた範囲内において 8 個の産卵巣穴と思われる巣穴を見つけている。9 月末からの繁殖調査で、その確認と除去を進めている。



岩穴巣穴からの卵塊の除去 (2024.10.1)

オオサンショウウオの種間交雑に関する深刻な課題 ～広島県の現状について～

○清水則雄（広島大学総合博物館）・池田誠慈（広島大学総合博物館）・三浦郁夫（広島大学両生類研究センター）・田口勇輝（オオサンショウウオ生態保全教育文化研究所）・阿部勝彦（広島市安佐動物公園）・桑原一司（広島大学オオサンショウウオ保全対策プロジェクト研究センター）・広島市市民局文化スポーツ部文化振興課

広島県西部の八幡川上流域において 2022 年 5 月に国の特別天然記念物オオサンショウウオと外来種であるチュウゴクオオサンショウウオの交雑種を初確認した。同種の交雑問題は京都の鴨川を発端として、三重県、奈良県、岡山県と確認が相次いでおり喫緊の課題である。本発表では、2022 年 5 月-2024 年 3 月に実施した広島県八幡川における野外調査と DNA 鑑定の結果から交雑状況の現状と課題を報告する。

調査では成体 110 個体、幼体 2 個体、幼生 122 個体の計 234 個体、繁殖巣穴 3 個、産出卵 1,500 個を確認した。成体 110 個体のうち在来種は 20 個体で、交雑種率は 81.8%であった。成体の交雑種はすべて雑種第 1 世代で、幼生及び幼体の交雑種率は 100%であり、全個体が雑種第 2 世代であった (N=118)。交雑オスの繁殖巣穴 (N=3) で確認した卵の交雑種率も 100%であった。交雑種は、在来種よりも有意に全長も大きく体重も重かった。卵、幼生の交雑種率から、在来種は繁殖に参加できていない可能性が示唆された。

岐阜県の現状 2024

河合七香・藤井飛燕・田中隆太郎・栗井佑果・安藤有未・志田和樹・安藤 芽唯・陳 仕煜・森 由妃・森 憲仁・飯田智輝・高木雅紀（大垣北高校自然科学部オオサンショウウオ班）

2023 年 8 月 8 日に、岐阜県下呂市の菅田川(図 1)でオオサンショウウオの捕獲を行った際、捕獲した 3 匹のうち 2 匹が外見上交雑個体と判断でき、その内の 1 匹からチュウゴクオオサンショウウオの遺伝子が検出されたのが、岐阜県初、全国では 9 府県目の交雑個体の発見であった(図 2)。その後、2024 年 6 月までに計 23 回の調査を行い、成体 91 個体と幼生 73 個体を捕獲し、オオサンショウウオ保全対策プロジェクト研究センターに依頼し、マイクロサテライト DNA の 5 遺伝子座(AJP01・AJP07-1・AJP16・AJP25・AJP26)を解析し、交雑判定を行った。その結果、成体の約 40%が交雑個体であることが分かった(図 3)。さらに地点ごとに見ていくと下流部よりも上流部のほうが交雑の割合が高いことが分かった(図 4)。幼生の DNA を調べた結果、全体で 85%が交雑個体であるとわかった(図 5)。どの地点においても幼生の交雑個体の割合は、半数を超えていた(図 6)。また、成体では岐阜のものとは別の国内外来種の遺伝子が検出され、すべてチュウゴクオオサンショウウオの遺伝子とヘテロで検出された。しかし、幼生の国内外来種の遺伝子を持っている個体には、チュウゴクオオサンショウウオの遺伝子を持っていない個体もいた。さらには、調べた 5 つの遺伝子座の中にチュウゴクオオサンショウウオの遺伝子をホモで持つ個体が多くみられた。これらのことから、交雑個体同士で繁殖が進んでいると分かった。菅田川では 1m を超える個体が見つかったが、 F_1 は見つかっていないことと合わせると、他地域から F_1 が菅田川に持ち込まれて、かなりの時間が経過していると考えられる。体各部の計



図 1. 岐阜県下呂市の菅田川



図 2. 下呂市菅田川オオサンショウウオ
上が国産個体、下が交雑個体

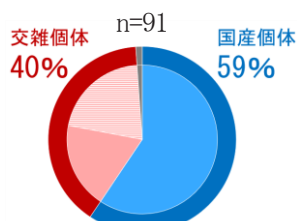


図 3. 成体の種別内訳

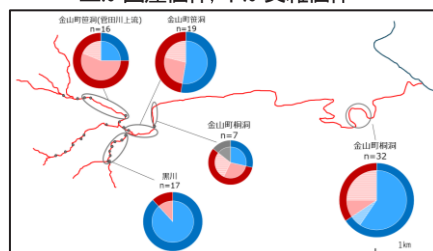


図 4. 地点ごとの成体の種別内訳

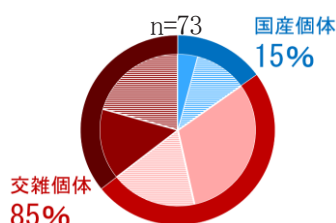


図 5. 幼生の種別

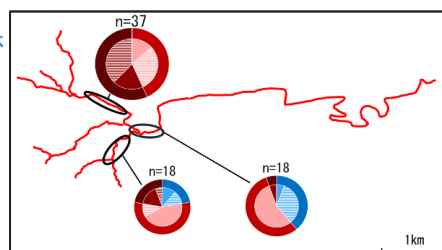
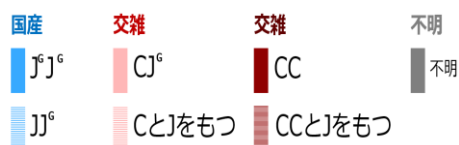


図 6. 地点ごとの幼生の種別内訳

測結果から、交雑個体の方が優位に大きいことが分かっており、国産個体の雄が繁殖に参加できない状況が発生し、幼生の交雑の割合が増加していると考えている。



特定外来生物指定と日本オオサンショウウオの会

清水善吉・岡田純・田口勇輝・桑原一司（日本オオサンショウウオの会）

はじめに

中国産オオサンショウウオおよび在来オオサンショウウオとの交雑個体が 2024 年 7 月 1 日に特定外来生物に指定された。両種の交雑化が生態系に与える影響の解明は十分とはいえないが、ひとつだけ明らかなところがある。それは、在来種との競合が生じ、中国産ならびに交雑個体の方が優位であり、やがては在来種を消滅させてしまうことである（図 1）。

いうまでもなく、在来種は特別天然記念物であることから、京都を皮切りに三重、奈良、岡山、広島、愛知、大阪等において対策事業が実施されている。また、滋賀や岐阜のようにこれから取り組む予定の地域もある。しかしながら、各地の対策事業は個々に実施されており、その内容や成果、課題等についての情報を共有・交換する機会はなかった。

そこで、関係する自治体職員や有識者が一堂に会して、各地の取り組み状況を報告する場を提供することを企画し、「オオサンショウウオ属交雑問題連絡会議」として 2021 年度から毎年開催している。

会議と抽出された課題

第 1 回／2022 年 6 月 1 日，名張市。文化庁・環境省・各自治体職員等 36 人参加

京都，滋賀，三重・奈良，岡山，広島の報告

課題: 交雑個体の法的位置づけがあいまいであるので，特定外来生物指定が必要

第 2 回／2023 年 6 月 1 日，京都市。文化庁・環境省・各自治体職員等 41 人参加

「オオサンショウウオ種群の個体数推定～賀茂川での事例」／滋賀県立大学・高倉耕一教授

「日本産，中国産，交雑個体の形態的識別について」／京都大学・原壮太郎助教

愛知，滋賀，京都，三重，奈良，岡山，広島の報告

課題: 特定外来生物指定にあたっては形態による識別が可能なのが必要

第 3 回／2024 年 6 月 3 日，広島市。文化庁・環境省・各自治体職員等 53 人参加

「特定外来生物の指定に際して－外来生物法」／環境省・末永珠佑専門官

「特定外来生物指定を受けて－文化財保護法」／文化庁・江戸謙顕主任調査官

「日本と中国・交雑個体の形態識別法」／京都大学・西川完途教授

岐阜，愛知，滋賀，京都，大阪，三重，奈良，岡山，広島の報告

課題: 特定外来生物新規指定を受けた事務調整

指定後の扱い

- ・各自治体の環境部署においても対策費の予算化が可能となる。
- ・交雑種の調査についても従来通り「現状変更申請」が必要，交雑鑑定は遺伝子分析が基本。
- ・捕獲した交雑個体は殺処分が基本，生体の移動や飼育する場合は別途に手続きが必要。

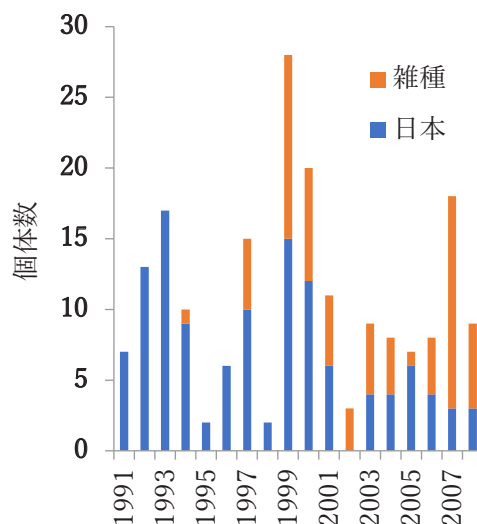


図 1. 滝川（名張市）における在来種と交雑種の推移 1991～2008（清水 2023, オオサンショウウオ緊急調査報告書，名張市）

京都大学子ども博物館 オオサンショウウオワークショップ

田中花音・西川完途（京都大学地球環境学堂）

京都大学総合博物館のエントランスホールでは、不定期の土曜日に大学院生を中心として子ども向けのワークショップが開催されている。今回は、子ども博物館にて約3年間行ってきたワークショップの内容及びその変遷、寄せられた質問や感想、今後の改善点を報告する。

① 子ども博物館「特別天然記念物 オオサンショウウオってなんだ！？～日本に住む世界最大級の両生類の謎にせまる！～」の内容とその変遷

初めに、日本産オオサンショウウオの学名や英語名の紹介、大きさや小型サンショウウオとの違いなど基本情報の説明を対話しながら行う。続いて、参加者は人の体との相違点を考えながらオオサンショウウオの擬似解剖体験として内臓パズルを行う（図1）。最後に、オオサンショウウオのぬいぐるみ（図1）を用いながら日本産・中国産・交雑個体の形態の違いや交雑問題を伝える。昨今の交雑問題をわかりやすく伝えるためにぬいぐるみから形態の違いを学ぶ形式を取り入れ、内臓パズルも色や形などの改良を行ってきた。

② ワークショップ中に寄せられた質問や感想

2024年6月～8月に行ってきたワークショップにおいて、参加者からの質問や感想を取り上げる。一番多かった質問はオオサンショウウオの食性についてだった。続いて、生息地のほか、ワークショップ実施者と所属研究室の研究内容についても質問されることが多かった。

③ 今後の改善点、展望

目の前に来た餌を丸呑みにするオオサンショウウオの行動を、ぬいぐるみを用いて具体的に説明することで、よりオオサンショウウオの習性に関する学びが深まる可能性が高い。加えて、生息地を示した地図の提示も有効だろう。また、子ども博物館の参加者には小学校低学年や未就学児童もあり、人の内臓についてよく知らない場合も多々あった。人の体の仕組みを図示したパネルなどを横に置くことで、内臓パズルに取り組みやすくなり、人の体との相違点も発見しやすくなるだろう。



図1. ワークショップの様子

川上ダムにおけるオオサンショウウオ保全の取り組み

松本彩菜（(独)水資源機構 木津川ダム総合管理所）

川上ダム事業におけるオオサンショウウオ保全の取り組みについて、一部を紹介するものです。

川上ダムは、前深瀬川、木津川沿川及び淀川本川の洪水被害軽減のため、また、伊賀市への安定した水道用水の確保などを目的に前深瀬川に建設された重力式コンクリートダムです。

令和元年より堤体コンクリートの打設を開始、令和3年には完了し、現在、試験湛水（令和3年12月16日開始）を継続中ですが、令和5年4月1日より管理を開始しています。

川上ダムが建設された前深瀬川流域にはオオサンショウウオが生息しており、ダム建設に伴う本種への影響を軽減するために、平成8年度から「川上ダムオオサンショウウオ調査・保全検討委員会」（平成26年度から「川上ダムオオサンショウウオ保全対策検討会」に名称を変更）を設立し、文化庁の許可を得て調査・保全対策を検討してきました。また、検討結果に基づいて工事実施に伴う保全対策を行い、現在はその効果を検証するためのモニタリング調査を継続しています。

保全対策の一例として、ダム湛水区域より上流のオオサンショウウオの生息環境改善のために、遡上路11箇所と人工巣穴32箇所を設置しており、遡上路は、現在設置しているすべてにおいて利用されていることを確認しています。

人工巣穴は、主に隠れ家として利用されていますが、2箇所では繁殖も確認しました。その内、令和5年に繁殖を確認した人工巣穴において、巣穴としての機能及び保全対策の効果を確認するため、人工巣穴の前に幼生トラップ（目合の小さいかご内に落ち葉を敷いたもの）を設置し（写真1）、巣穴から幼生が分散するまでの確認を行いました。

この幼生トラップの設置に関しては、清水善吉先生にご助言をいただき、計17個体の分散を確認することができました（写真2）。人工巣穴がオオサンショウウオの繁殖巣穴としての代替え機能を有していることが確認できましたので、調査の方法・状況などを報告するものです。



写真1. 幼生トラップの設置状況



写真2. トラップ内で確認した幼生

川上ダム建設事業において、実施した保全対策については、今後もモニタリング調査を行ってまいりますので、新たな知見が得られましたら本会に報告したいと思います。

激痩せ個体2頭と夏のオオサンショウウオ観察会

○松山鴻志・松本啓秀・宅野翔吏・嶋田千紗・大野瑞季・松本彩良・松本理秀・今田竜聖・岡本 絢・吉永悠人・村田 満（学校法人山口高川学園 高川中学校）

はじめに

2024年8月9日・10日、2晩連続の現地調査を行った。8/9の調査地点は宇佐川堰堤直下であり、8/10は『夏のオオサンショウウオ観察会』の会場である深谷峡キャンプ場である。
合計16頭の捕獲を行い、2頭が再捕獲、他の14頭は新規個体であった。参加した誰もが驚いたのが、再捕2頭の激痩せぶりである。背骨が浮き出ている、皮膚の一部には炎症がみられた(図1)。この2頭を中心に、観察会の意義について考えたことを報告する。



図1. 激やせの2個体



図2. 観察会



図3. 再捕獲個体

方法

トラップ法と踏査法を併用した。午後3時頃の明るいうちに調査予定地にトラップをセットし、午後8時ごろから照明をたよりにタモ網を使って捕獲した。一時保護した個体は個体識別・計測・健康チェック、新規個体は組織の採取(図2)を行い、記録後に捕獲地点に放流した。再捕個体は、学校に戻ってデータベースから過去の記録と比較した(図3)。

結果及び考察

8/9が1~10、8/10が11~16である。体重/全長²により粗脂肪量(肥満度)を求めた。マイクロチップ番号は、共通数字392145000を省略している。激痩せ個体は4以下だった。

個体	1	2	3	4	5	6	7	8	9再捕	10再捕	11	12	13	14	15	16
全長mm	690	680	630	635	610	660	670	760	750	610	620	530	630	770	755	675
頭長mm	90	100	90	110	90	85	90	115	110	80	100	80	93	120	110	120
眼間幅mm	50	58	53	63	40	45	50	68	55	45	65	写真判定	55	60	65	45
尾基部mm	50	52	45	54	40	41	45	60	45	40	62	50	70	79	72	55
尾最大幅mm	61	65	55	70	45	52	58	65	55	40	77	70	72	82	90	70
右前足(前肢右)	まる	1クレ	まる	まる	まる	まる	4欠損	1水泡	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	4欠損
左前足(前肢左)	まる	まる	1クレ	まる	まる	まる	1再生	異常なし	なし	なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
右後足(後肢右)	まる	1クレ	1クレ	まる	まる	クレ2つ	4水泡	1. 2再生	なし	なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
左後足(後肢左)	まる	まる	1クレ	まる	まる	クレ1つ	124水泡	1. 2再生	なし	3欠損	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
孔(頭胴長)mm	450	450	410	470	390	420	430	505	490	380	420	330	420	475	500	440
スリットmm	18	17	10	22	20	14	18	13	10	18	25	15	15	30	15	12
総排出孔の肥大	なし	やや肥大	なし	やや肥大	やや肥大	なし	やや肥大	やや肥大	なし	なし	肥大	なし	なし	肥大	なし	なし
体重kg	1.440	1.580	1.310	1.825	1.065	1.195	1.345	2.090	1.410	0.720	2.080	1.155	2.060	2.990	3.140	1.815
マイクロチップ番号	809190	811220	738044	804928	809444	807762	810064	648842	056653	376770	737409	812399	803188	873922	650081	735294
粗脂肪量(肥満度)	4.38	5.02	5.24	7.13	4.69	4.16	4.47	4.76	3.34	3.17	8.73	7.76	8.24	6.55	7.30	5.90

反省と展望

生息地再生後の激痩せである。水質以外の原因も含め、理由を究明したい。

AGEs を用いたオオサンショウウオの年齢推定にチャレンジ中

片岡柚奈・松井久実（麻布大学 獣医学部）

【はじめに】

川でオオサンショウウオに出会ったときに「何才だろうね〜？」という会話をした経験はないだろうか？野生動物の年齢は分からないことがほとんどで、哺乳類であれば見た目や歯の摩耗具合、目の濁りなどの主観による判断に頼ることが多い。爬虫類では個体の大きさ、皮膚の性状、カメであれば黒化度や甲羅の摩耗具合などが判断材料になるだろうか。ではオオサンショウウオではどうだろう。個体の大きさはある程度加齢の判断に有効だが、個体のサイズは生息流域の餌資源量や成熟サイズの影響を受けるため、生息地が異なる集団では単純に比較できない。科学的な解析として、個体の骨を採取し、組織切片として顕微鏡で観察し、骨の横断面に現れる成長停止線（LAG）を数える骨年代学的手法がオオサンショウウオでも用いられている。この方法は個体から骨を採取するため、生体に用いるのは難しい。最新的手法としてはDNAのメチル化を解析するエピジェネティックなアプローチが知られる。我々は現時点で利用できる手法で、生体に対し侵襲性の少ない解析手法として最終糖化タンパク（AGEs）を用いた手法を検討しており、その一部を紹介する。

【AGEs ペントシジンをを用いた年齢推定法】

AGEs はヒトの健康科学や医療分野で近年聞かれるようになった用語で、体を構成するタンパクに糖が結合することで生成される老廃物である。たいていは腎臓で尿中に排泄されていくが、コラーゲンのように組織の構造維持に関わり長く体内に残るタンパクは時間の経過とともに徐々に糖化が進行する。コラーゲンの糖化に関わるAGEsにペントシジンがあり、哺乳類や鳥類ではペントシジンの蓄積と年齢に相関があることがわかっている。変温動物への応用は報告例が少なく、当研究室ではウミガメやヌマガメ、ヘビ、オオサンショウウオを対象に、その有効性を探っている。

【ペントシジンの分析】

ペントシジンの分析は次のように行う。個体から真皮を含む皮膚を少量（3～5mm 径）採取する。採取したサンプルを塩酸で加水分解、精製後、蛍光 HPLC で定量する。機器分析を用いる方法以外に、ELISA で測定する方法もある。ペントシジンはコラーゲンに対し蓄積する物質であるので、その値はコラーゲン 1mg あたりのペントシジン濃度としてあらわす。そのため、前処理途中のサンプルから一部を取り分け、第1級アミンおよび第2級アミンを誘導体化し、蛍光 HPLC でヒドロキシプロリン（コラーゲンに特異的に存在するアミノ酸）を定量、得られた値からサンプルに含まれるコラーゲン量を算出、ペントシジン濃度（pmol/mg collagen）としてあらわす。

オオサンショウウオでもペントシジンは検出することができたが、現在はフィールドから捕獲駆除された交雑個体を用い、解析データを蓄積している段階で、年齢を安定的に推定できるまでには至っていない。交雑種の研究や対策に取り組んでいる京都大学・広島大学と連携を深めながら、この手法の有効性を探っているところである。

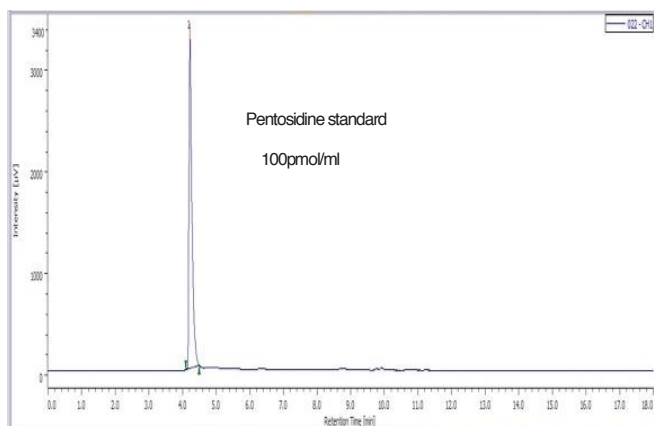


図 ペントシジスタンダードの蛍光 HPLC クロマトグラフ

岡山県高梁川のオオサンショウウオ

城代玲志・亀崎直樹（岡山理科大学大学院理工学研究科）

はじめに

高梁川は岡山県を流れる一級河川の一つである。これまで岡山県の県北部には広くオオサンショウウオ *Andrias japonicus* の生息が確認されており、本河川にも生息が確認されていたものの、定期的な調査が行われていなかった。そこで2022年より筆者らが調査を開始した。本調査では高梁川水域における本種の分布と高梁川本流における本種が生息する好適場を考察した。

調査概要

調査期間は2022年2月15日から2024年9月8日までで、これまでに18回の調査を実施している。捕獲にはカメ捕獲用かご罠を使用した。捕獲調査は高梁川水系 85.5km の範囲に 49 地点、269 個の罠を設置した。また、2024年7月27日からは河川の遊泳調査も実施している。この調査では昼の間に河川を遊泳し、河川環境を評価した。なお、遊泳調査の範囲は岡山県新見市菅生から2.5km 下流までである（図1）。評価方法は100m区間における瀬・淵の割合を20%ごとに+で評価した。植生は自然護岸が+、人工護岸を-とした。

結果及び考察

これまでに捕獲できたのは新規捕獲個体が87個体、再捕獲個体が15個体である。特に高梁川ではそのうちの45個体が捕獲されている。なかでも捕獲が集中していたのは新見市菅生に位置する千屋ダムより下流9.3kmの範囲で37頭が捕獲された。この値を罠の数で割り密度を見ると0.56となった。遊泳調査では、罠で捕獲された個体や遊泳調査中に確認された個体の環境を照らし合わせると、主に淵に多い傾向にあった（表1）。特に岸に近い植生やゴミの陰といった場所が多い。また、瀬であっても緩やかな場所に生息していた。また地点1の捕獲頭数が非常に多かった原因として千屋ダムの影響が考えられる。また、この地点で捕獲される個体の中には肥満度が4に満たない個体も確認されており、痩せ現象が起こり始めている可能性もある。

表1. 遊泳調査の結果

地点	瀬	淵	植生	頭数
1	++++	0	+	14
2	++++	0	+	0
3	++++	0	+	0
4	+++	+	+	0
5	++	++	+	0
6	+++	+	—	0
7	+++	+	+	0
8	++	++	+	2
9	++++	0	+	0
10	+++	+	+	0
11	++++	0	+	0
12	+++	+	+	0
13	++++	0	0	0
14	++	++	+	1
15	++++	0	+	0
16	+++	+	0	0
17	++++	0	+	1
18	++	++	+	1
19	+	+++	+	1
20	+	+++	+	0
21	++	++	+	0
22	++++	0	+	0
23	+	+++	+	0
24	++++	+	0	0
25	+++	+	+	1

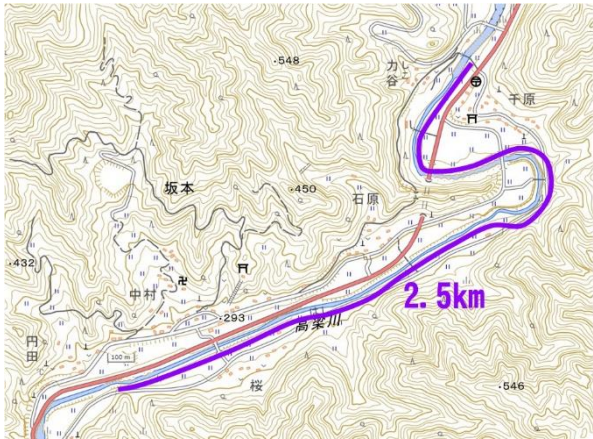


図1. 遊泳調査を実施した範囲

チュウゴクオオサンショウウオ等の特定外来生物指定について

田口知宏（環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室）

令和6年7月1日、チュウゴクオオサンショウウオ等（*A. davidianus*, *A. sligoi*, *A. jiangxiensis*, *A. cheni* 及びオオサンショウウオ属内の交雑種）が「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」における「特定外来生物」に指定された。これは、当該種が在来種オオサンショウウオ *A. japonicus* との間で、餌資源や繁殖場所の競合や、交雑による遺伝的かく乱を起こしている報告に基づいた措置である。

この指定によって、チュウゴクオオサンショウウオ等の扱いがどう変わったのかについて、外来法に係る規制等の観点から解説する。

また、オオサンショウウオ属は、在来種であるオオサンショウウオ *A. japonicus* が文化財保護法による特別天然記念物に指定されている等、種ごとに異なった複数の法律による規制がある。これらの法規制について、野外でオオサンショウウオを見かけたときはどうすればいいのかも含め解説する。

チュウゴクオオサンショウウオ等をはじめとした侵略的外来種による被害は、生物多様性の損失を引き起こす直接的な要因であり、国や地方公共団体のみならず、事業者や国民も含めた全ての主体が当事者意識をもって取り組むべき喫緊の課題となっている。そのような状況も踏まえ、チュウゴクオオサンショウウオ等に限らず、外来種問題全般の概要やそれに係る対策の枠組みについても解説を行う。

4 その他の行事

4.1 オープニングイベント

2004年に設立し、広島県北広島町の松歳川を中心に保護活動等を継続されている「三ちゃんS村」の主要メンバーであるこども園ふたばの園児たちから『さんちゃんのうた』と『サンちゃん音頭』がオープニングイベントとして披露されました。



▲『サンちゃん音頭』を披露する園児たち

4.2 情報交換会

大会1日目終了後、酔膳亭みちづれにて、日本各地でオオサンショウウオの調査保護研究等に関わる参加者たちが酔いも道づれに有意義な情報交換が行われました。交換会中、劇団「くむくむ」による劇「みどりのサンちゃん」が披露されました。



▲情報交換会での劇団「くむくむ」による「みどりのサンちゃん」公演（左）と情報交換会（右）の様子

4.3 オオサンショウウオ生息地見学会

大会終了後、1973年から定点調査が行われているという北広島町志路原 上石地区にて、オオサンショウウオの生息地の見学が行われました。約200名の見学者を、地元三ちゃんS村とこども園ふたばで案内していただき、人工巣穴の中で孵化した幼生を守るヌシの観察をしました。



▲オオサンショウウオ生息地見学の様子

4.4 広島市安佐動物園施設見学

大会終了直後、広島市安佐動物園のオオサンショウウオ保護増殖施設（通常は非公開）の見学が行われました。約 150 名が参加し、参加者の皆様は、繁殖水槽、130 cm の巨大なオオサンショウウオや年齢別の幼生群など、普段見られない飼育場を熱心に見学されていました。



▲安佐動物公園飼育場の見学の様子

5 アンケート結果

大会参加者及び当会会員（ML 登録者）を対象に、今後の大会運営の参考にするためのアンケート調査を実施した。アンケート項目は、日本オオサンショウウオの会の会員であるか、広島大会への参加の有無、大会への参加経験回数、大会の感想、良かった企画、その他感想、居住の都道府県及び年齢である。調査の結果、44 名（前回回答数 72 名）の回答を得ることができたので報告する。

① 日本オオサンショウウオの会会員ですか。

44 名中、38 名（全体の 86%）が会員で、6 名（全体の 14%）は非会員であった。

② 今大会（広島大会）の参加の有無

44 名中、39 名（全体の 89%）の方は今大会に参加しており、5 名（11%）は不参加であった。

③ 大会への参加経験回数

今大会（広島）に参加した 39 名のうち、これまでの大会参加経験は、3 回以上が 18 名（全体の 46%）と最も多く、はじめて参加が 17 名（44%）、2 回目が 4 名（10%）であった。

④ 今大会（広島大会）の感想

今大会に参加した 39 名のうち、今大会の感想について、「とても満足」、「どちらかと言えば満足」、「どちらとも言えない」、「どちらかと言えば不満」、「とても不満」の 5 段階で問うたところ、すべての回答が「とても満足」32 名（全体の 82%）か「どちらかと言えば満足」7 名（18%）で、多くの参加者が満足した大会であることが示された。

⑤ 今大会（広島大会）で良かった企画

今大会に参加した 39 名のうち、今大会の良かった企画について問うたところ（複数回答可）、「各地からの報告（口頭）」が 36 件（39 名の 92%）と最も良い企画として回答された。次いで「地元からの報告」と「物販」がそれぞれ 28 件（72%）であった（図 1）。

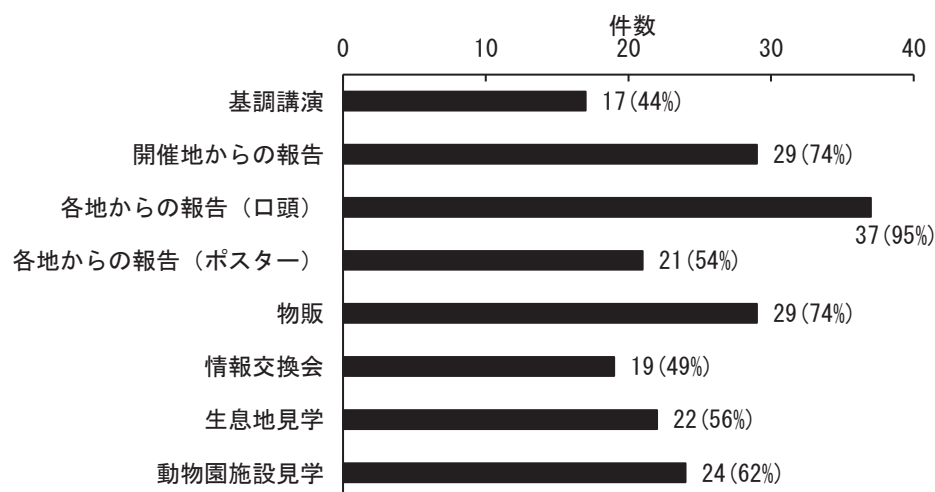


図1. 今大会（広島大会）の各企画について 良かった企画の各回答件数（割合は回答者に対する回答件数を示す）

⑥ 各企画等の感想

多くの方から多岐にわたるご意見をいただいた。事務局内で課題を整理し、改善できるところは対応していきたい。

⑦ 居住の都道府県

今大会の参加者の居住地（都道府県）は、オオサンショウウオの生息地である府県（愛知2名、岐阜2名、三重2名、京都1名、大阪2名、兵庫3名、広島15名、鳥取4名、島根2名）から非生息地の関東地方（群馬1名、東京3名、神奈川2名）に及んだ。最も多かったのは、今大会の開催地であった広島（全体の38%）であった。なお、九州と四国地方からの回答はなかった。

⑧ 年齢

今大会の参加者の年齢層は、10代から60代に及んだ。多かったのは、「50代」と「60代」で、この年代で全体の54%を占めた（図2）。

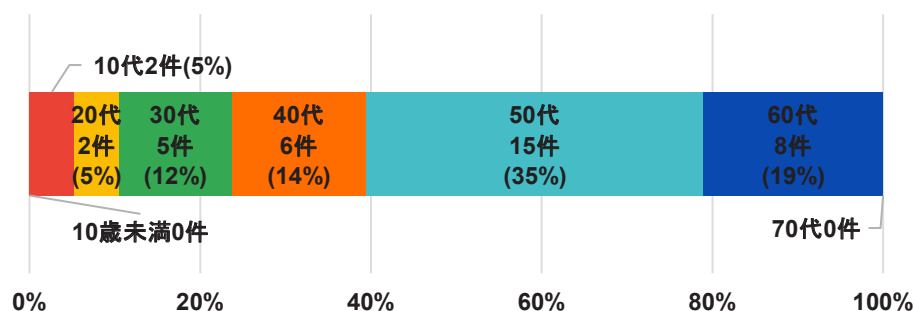


図2. 今大会（広島大会）の参加者の年齢層

⑨ その他

本アンケートにて、今大会の環境省による基調講演の資料を見たいという要望があり、演者から許可を得て、当会の会員向けに資料を提供していただいた。資料を希望の場合は、事務局（nihonoosanshouuonokai@gmail.com）までお知らせください。

【 会 告 】

第 20 回日本オオサンショウウオの会名張大会について

日 時： 2025 年 10 月 18 日（土曜）から 19 日（日曜）

場 所： ads ホール（三重県名張市松崎町 1325-1）

編集後記

第 19 回オオサンショウウオの会の報告書が出来上がりましたので、お届けします。自身は諸事情により今大会に参加ができなかったのですが、本冊子作成にあたり、広島県でのオオサンショウウオ調査研究等の歴史の深さを思い知りました。広島県でのオオサンショウウオの研究は 1925 年から開始され、野外調査は 1973 年から行われているとのこと。しかも市民活動としても、動物園研究としても継続していると。取組みを開始された先人だけでなく、それを繋ぎ継続されてきた後人たちにも深い尊敬の念を抱かずにはいられませんでした。ただ、その一方で、オオサンショウウオの寿命の長さを考えれば、我々がみている彼らの様相はまだまだ一端なのかもしれません。そんなことを考えながら、オオサンショウウオという動物に改めて魅せられるのでした。次の大会は三重県名張で開催です。それではまた。（谷口）

第 19 回日本オオサンショウウオの会広島大会報告書

2025 年 3 月 31 日発行

発行者 日本オオサンショウウオの会

〒731-3361 広島県広島市安佐北区あさひが丘 2-14-31

オオサンショウウオ生態保全教育文化研究所内

E-mail : nihonoosanshouuonokai@gmail.com

URL : <https://www.giantsalamander.net>

印刷所 前川印刷株式会社